

泉大津市
介護保険サービス提供事業所調査
ケアマネジャーに関する調査
結果報告書

令和5年8月
泉大津市

目 次

I. 調査の概要	1
1 調査目的	1
2 実施要領	1
3 報告書の見方	2
II. 調査結果	3
1. 介護保険サービス提供事業所調査	3
1. サービス利用者数について	3
2. 今後の事業展開について	7
3. 介護人材について	10
4. 運営状況について	13
5. 介護予防・重度化防止について	15
6. その他	18
7. 介護人材実態調査	22
8. 居所変更実態調査	26
2. ケアマネジャーに関する調査	29
1. 介護支援専門員について	29
2. 必要と感じるサービスについて	32
3. 利用者の施設入居の希望について	34
4. 虐待について	35
5. 医療との連携について	36
6. 地域における支援について	38
7. 認知症について	40
8. 自立支援・重度化防止について	43
9. 新型コロナウイルス感染症について	45
10. ヤングケアラーについて	46
調査票	49

I. 調査の概要

1 調査目的

本調査は、令和6年度から令和8年度までの3年間を計画期間とする「泉大津市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画」の策定にあたり、介護保険サービス事業所及び市内で活動しているケアマネジャーの現状を把握し、今後の泉大津市の介護保険事業及び高齢者福祉施策の基礎資料とするために実施しました。

2 実施要領

	調査区分	
	介護保険サービス提供事業所調査※	ケアマネジャーに関する調査
(1) 調査対象	市内で介護保険サービスを提供している訪問系、通所系、施設・居住系の各事業所	市内で活動するケアマネジャー
(2) 調査期間	令和5年5月30日(火)～6月22日(木)	
(3) 調査方法	郵送配布・郵送回収	
(4) 配布数	130件	53件(20事業所)
(5) 有効回収数 [有効回収率]	98件 [75.4%]	44件 [83.0%]

※介護保険サービス提供事業所調査は、従来の市独自の設問項目に加え、国の提供する調査票による「介護人材実態調査」および「居所変更実態調査」の内容も含めて調査を行った。

※ケアマネジャーに関する調査は、事業所経由で所属するケアマネジャーに個別に調査票を配付した。

3 報告書の見方

- (1) 図表中の「n (number of case)」は、有効標本数（集計対象者総数）を表しています。
- (2) 回答結果の割合「%」は有効標本数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- (3) 複数回答の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- (4) 図表中に次のような表示などがある場合は、複数回答を依頼した質問を示しています。
 - ・MA % (Multiple Answer) : 回答選択肢の中からあてはまるものをすべて選択する場合
 - ・3LA % (3 Limited Answer) : 回答選択肢の中からあてはまるものを3つ以内で選択する場合これ以外の場合は、特に断りがない限り、単一回答（回答選択肢の中からあてはまるものを1つだけ選択する）形式の設問です。
- (5) 図表中において「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものです。
- (6) 令和2年実施の前回調査と比較可能な設問においては、前回調査との比較を行っています。

Ⅱ. 調査結果

1. 介護保険サービス提供事業所調査

1. サービス利用者数について

〔1〕サービス利用定員、利用者数

【訪問系事業所：問3、施設系・通所系事業所：問4】

■ 貴事業所において、サービスを利用されている方について、ご記入ください。

○ 定員は設定があるサービスの場合のみ、令和5年5月1日現在の状況でお答えください。

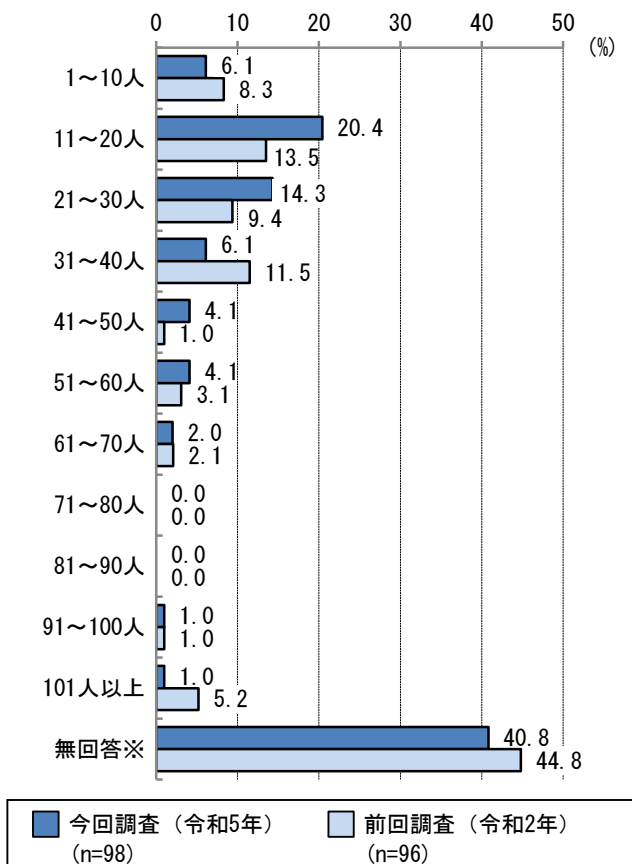
○ 利用者数は令和5年4月1日から4月30日までの利用者について、実人数でご記入ください。

定員は、「11～20人」の事業所が20.4%と最も多く、次いで、「21～30人」が14.3%となっています。利用者数については、「21～30人」が21.4%と最も多く、次いで、「31～40人」が19.4%、「11～20人」が17.3%となっています。

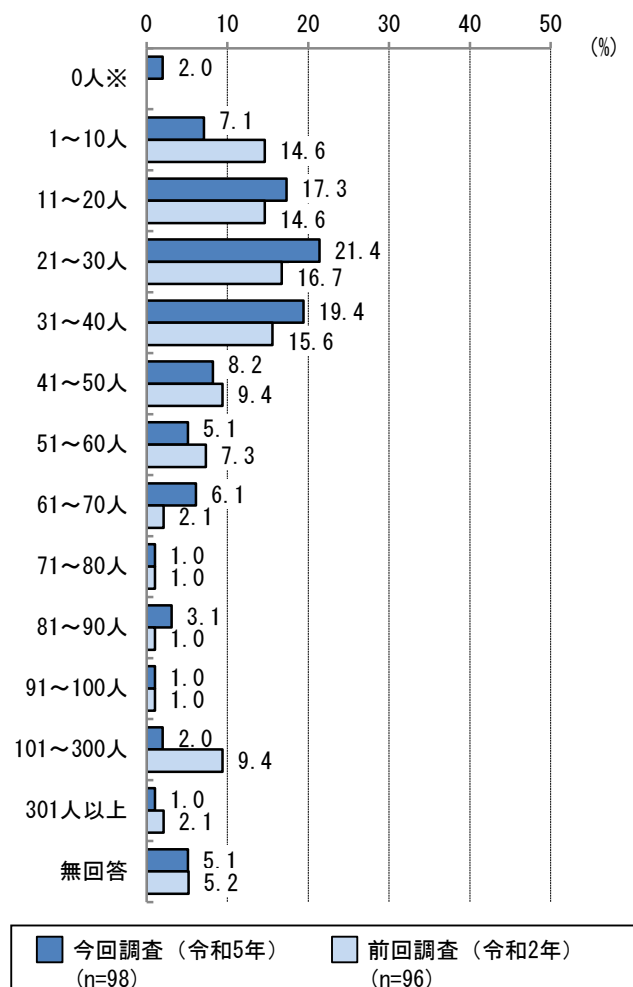
【定員】

【利用者数】

利用人数合計：3,637人
(回答事業所数：93)



※無回答には定員を設けていない事業所を含む。

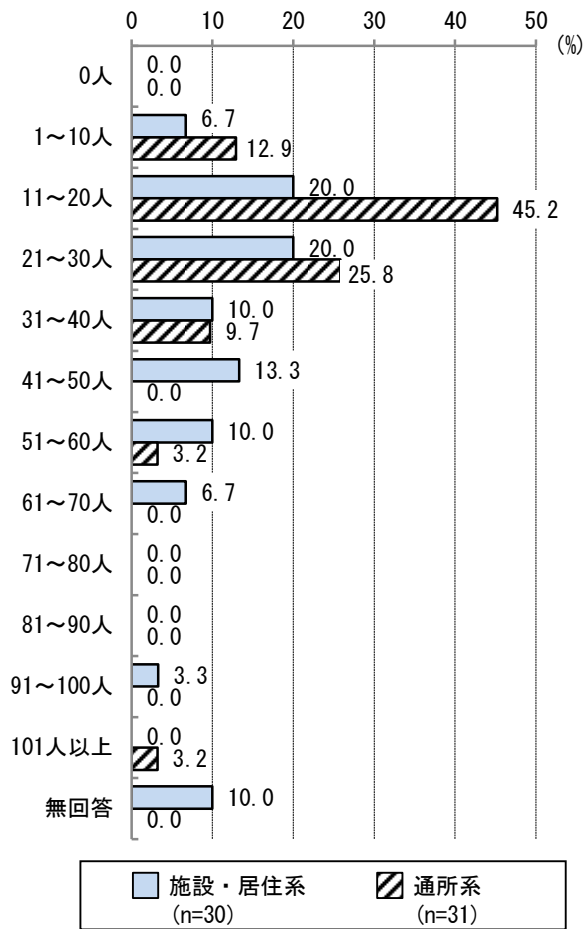


※前回調査では、「0人」のカウントなし。

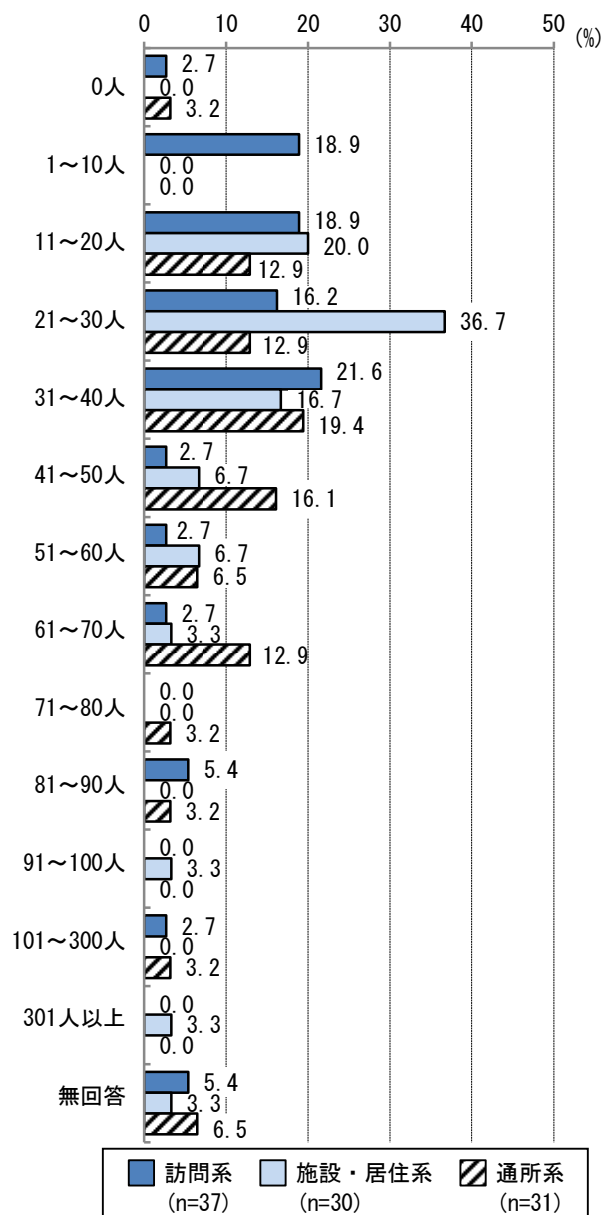
Ⅱ. 調査結果 1. 介護保険サービス提供事業所調査

参考

【定員 サービス種別】



【利用者数 サービス種別】



利用人数合計

訪問系：1,058人

施設・居住系：1,232人

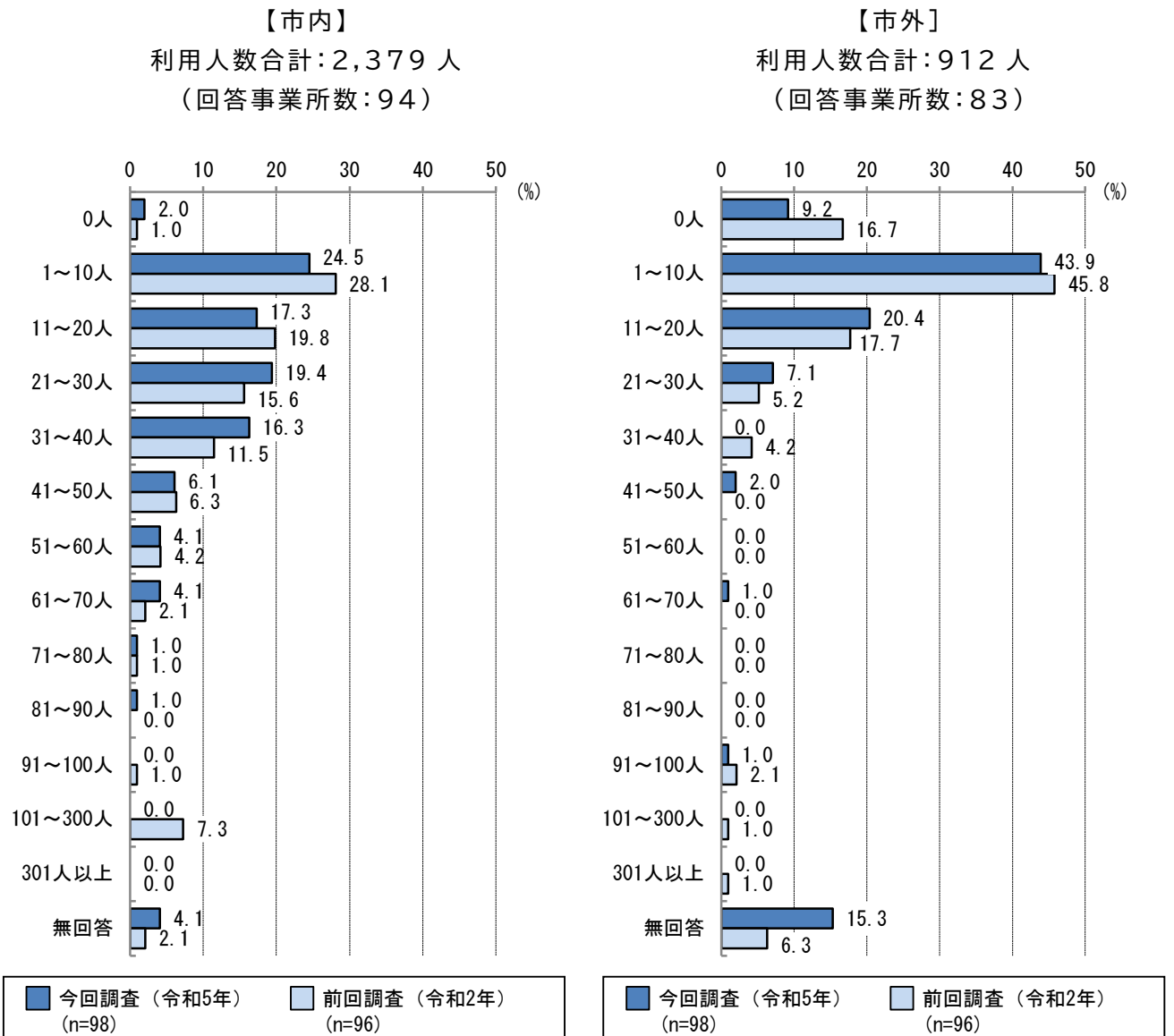
通所系：1,347人

〔2〕居住地ごとの利用者数

【訪問系事業所：問4、施設系・通所系事業所：問5】

■ 利用者数について、居住地ごとの人数をご記入ください。

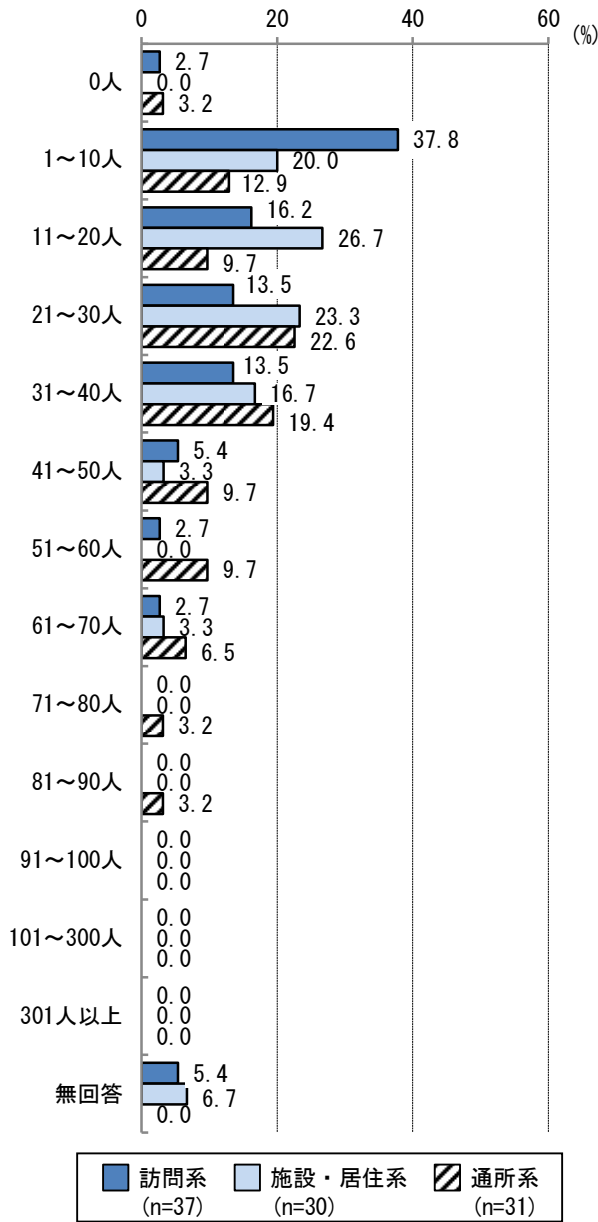
市内の利用者数は、「1～10人」が24.5%と最も多く、次いで、「21～30人」が19.4%となっています。市外の利用者数は、「1～10人」が43.9%と最も多く、次いで、「11～20人」が20.4%となっています。



Ⅱ. 調査結果 1. 介護保険サービス提供事業所調査

参考

【市内 サービス種別】



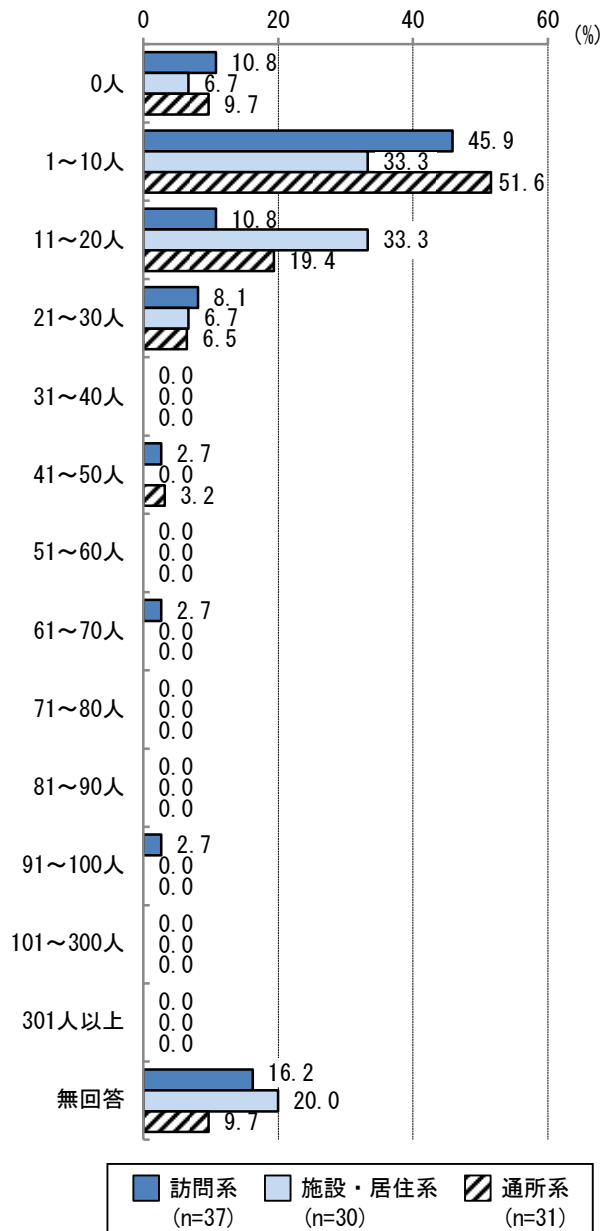
市内利用人数合計

訪問系: 667人

施設・居住系: 623人

通所系: 1,089人

【市外 サービス種別】



市外利用人数合計

訪問系: 401人

施設・居住系: 270人

通所系: 241人

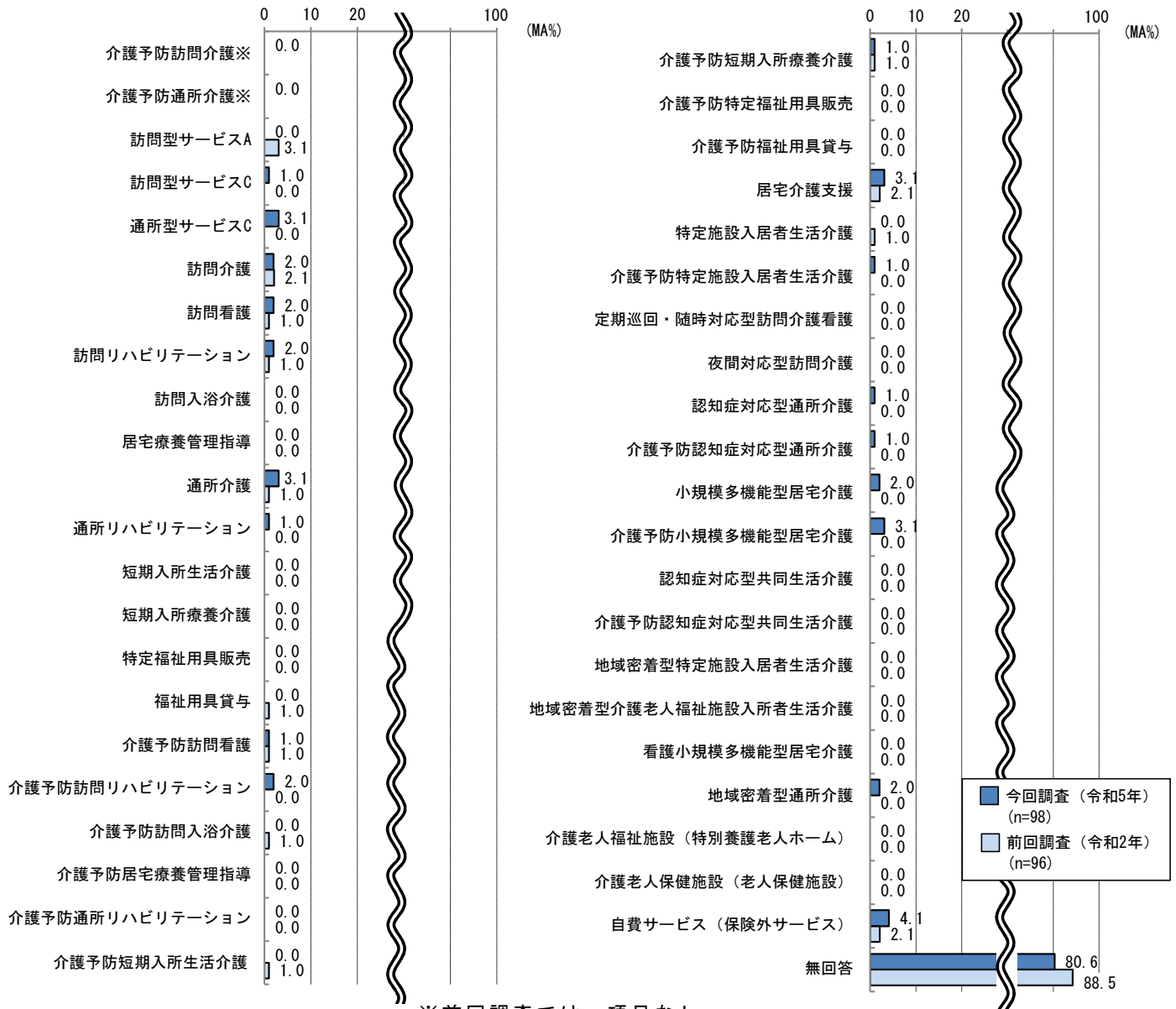
2. 今後の事業展開について

〔1〕今後新規に展開したい介護サービス

【訪問系事業所：問5-1、施設系・通所系事業所：問6-1】

■ 貴事業所において、今後、泉大津市において、新規に展開したい(新規に事業実施に取り組みたい)と考えている介護サービスはありますか。該当する番号を次ページから選び記入してください。(いくつでも)

今後新規に展開したい介護サービスは、「自費サービス（保険外サービス）」が4.1%と最も多く、次いで、「通所型サービスC」、「通所介護」、「居宅介護支援」、「介護予防小規模多機能型居宅介護」がそれぞれ3.1%となっています。



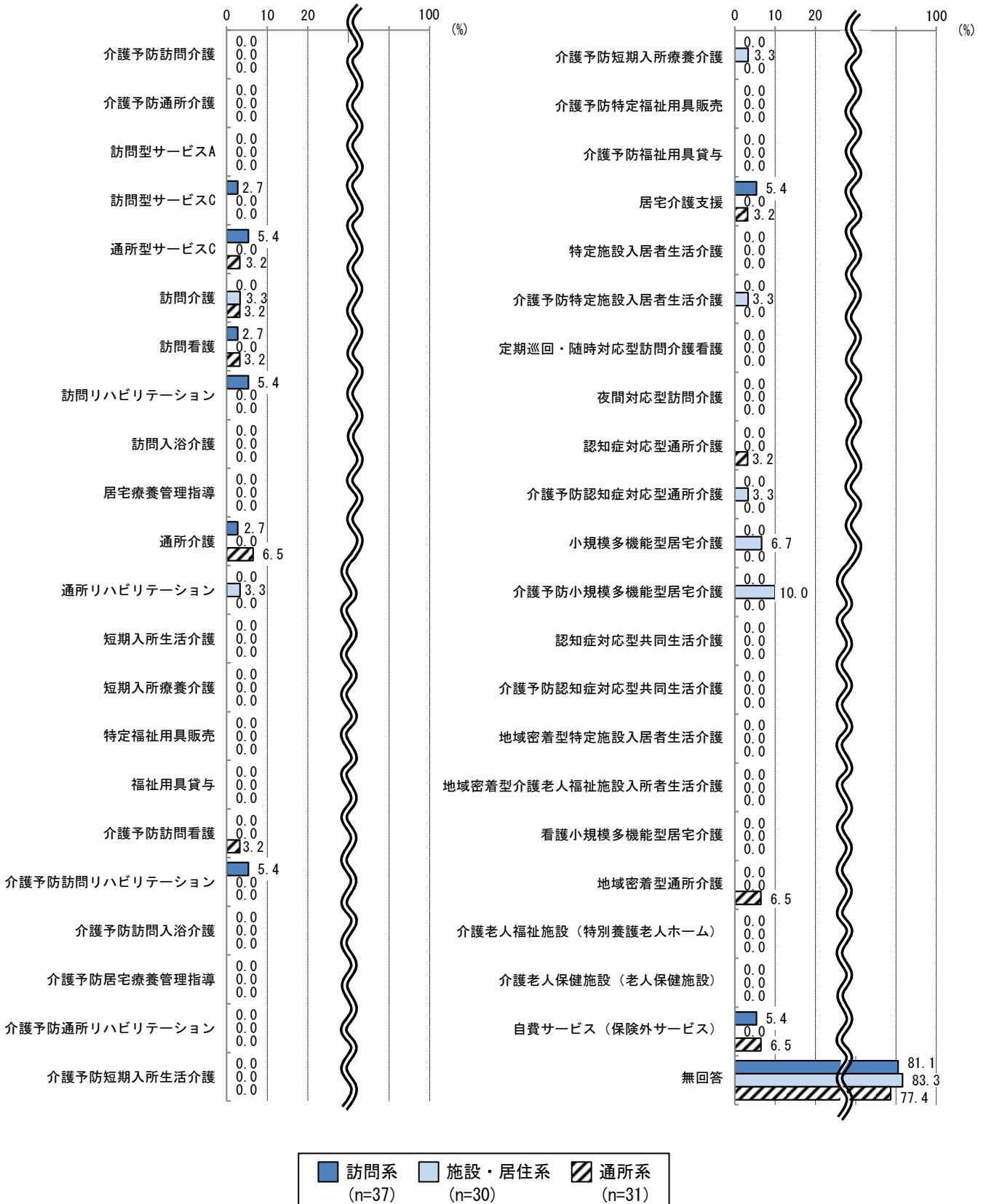
※前回調査では、項目なし。

(件)		(件)		(件)	
訪問型サービスC	1	通所リハビリテーション	1	認知症対応型通所介護	1
通所型サービスC	3	介護予防訪問看護	1	介護予防認知症対応型通所介護	1
訪問介護	2	介護予防訪問リハビリテーション	2	小規模多機能型居宅介護	2
訪問看護	2	介護予防短期入所療養介護	1	介護予防小規模多機能型居宅介護	3
訪問リハビリテーション	2	居宅介護支援	3	地域密着型通所介護	2
通所介護	3	介護予防特定施設入居者生活介護	1	自費サービス（保険外サービス）	4

II. 調査結果 1. 介護保険サービス提供事業所調査

参考

【今後新規に展開したい介護サービス サービス種別】



〔2〕介護保険外のサービスに関して現在行っていること(自由記述)

【訪問系事業所：問5-2、施設系・通所系事業所：問6-2】

■ 介護保険外のサービスに関して、現在行っていることはありますか。自由にご記入ください。

36件(のべ45件)のご意見がありました。主な内容は下記のとおりです。

ご意見内容	件数
通院同行、送迎、院内介助など	4件
体操教室、クラブ活動、エクササイズ	3件
みんなの居場所づくり事業	2件
配食サービス	2件
家事などの自費サービス、衣替え	2件
介護保険に入れない方への声かけ、認定のない方のデイへの受け入れ	2件
地域交流、ボランティア	1件
その他 ・訪問美容 ・足浴 ・服薬サービス ・夜間巡回時の排泄 ・唄の会 ・有料職業紹介事業	各1件
提供なし	23件

〔3〕介護保険外のサービスに関して新規で考えていること(自由記述)

【訪問系事業所：問5-3、施設系・通所系事業所：問6-3】

■ 介護保険外のサービスに関して、新規で考えていることはありますか。自由にご記入ください。

32件のご意見がありました。主な内容は下記のとおりです。

ご意見内容	件数
介護タクシー	2件
外出同行、通院同行	2件
整容(散髪等)、福祉ネイル・アロマセラピー	2件
買いものサービス	1件
その他 ・要支援または総合事業対象者とした超短時間リハビリデイ ・介護予防の機能のある老人ホームにしたい、外部の一般の人とのコミュニケーションや相談に対応できるサロン風談話スペースを設けたい など	3件
検討中	1件
なし	21件

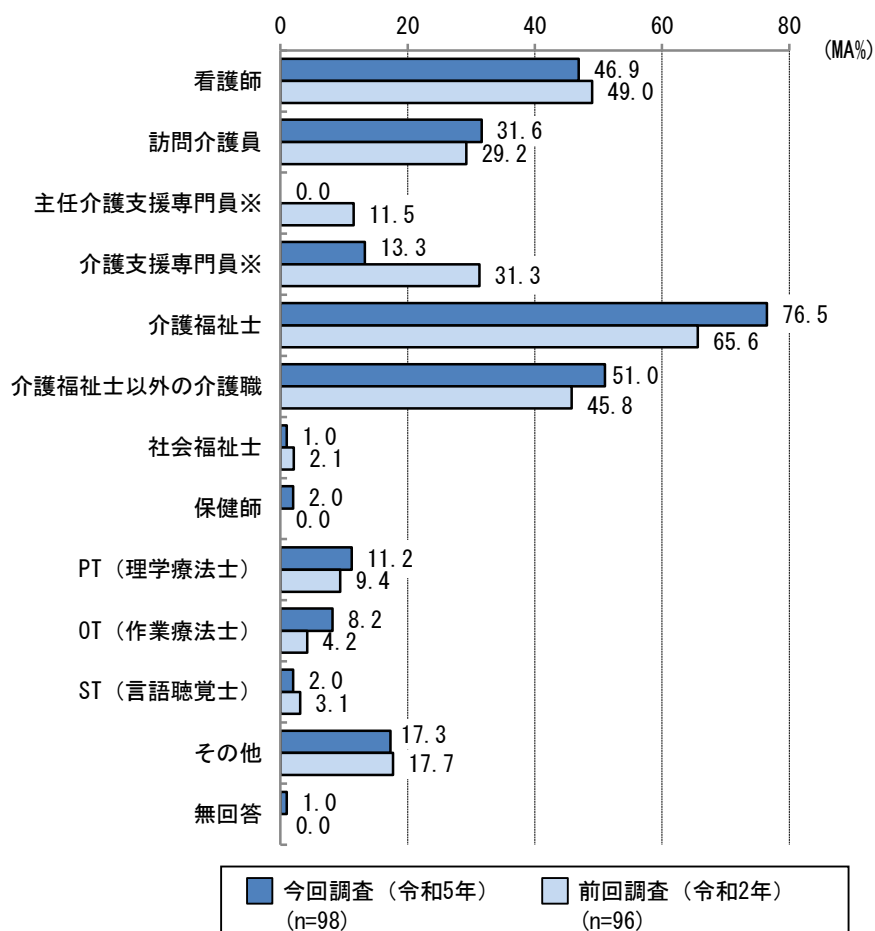
3. 介護人材について

〔1〕人材配置の状況

【訪問系事業所：問6、施設系・通所系事業所：問7】

■ 貴事業所が配置している職種は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

事業所で配置している職種は、「介護福祉士」が76.5%と最も多く、次いで、「介護福祉士以外の介護職」が51.0%で、前回調査に比べて、「介護福祉士」は10.9ポイント、「介護福祉士以外の介護職」は5.2ポイント増加しています。



※主任介護支援専門員、介護支援専門員については、訪問系は選択肢なし。

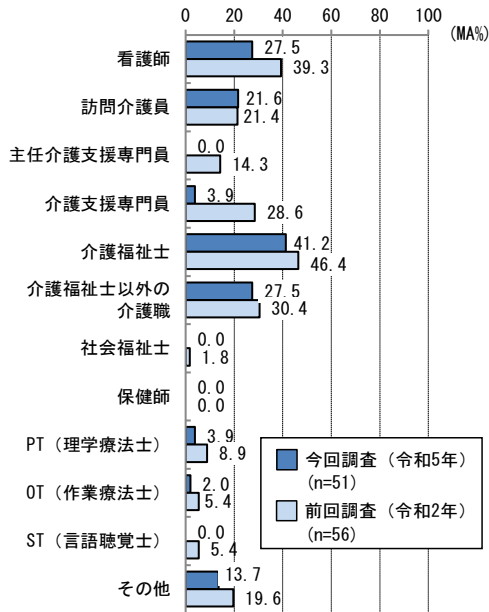
〔2〕人材の過不足状況

【訪問系事業所：問7、施設系・通所系事業所：問8】

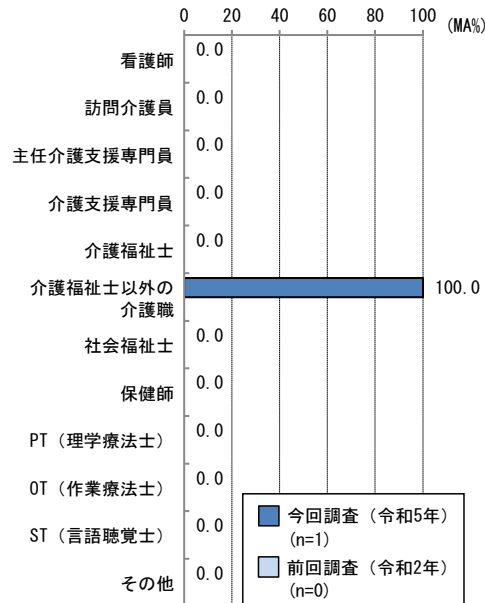
■ 前問で選択した人材の過不足状況はどうか。当てはまる項目の()に、選択した番号を記入してください。

不足している人材は、「看護師」、「訪問介護員」、「介護福祉士」、「介護福祉士以外の介護職」などが多くなっています。

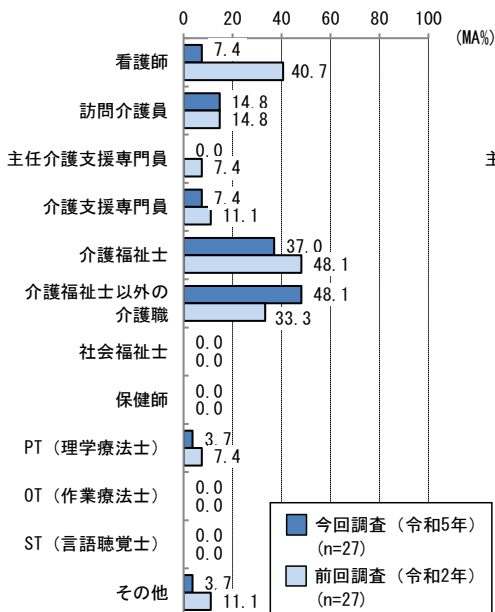
【適当】



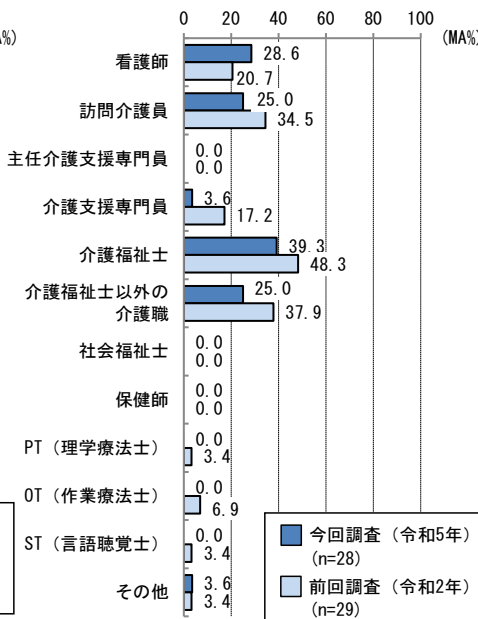
【過剰】



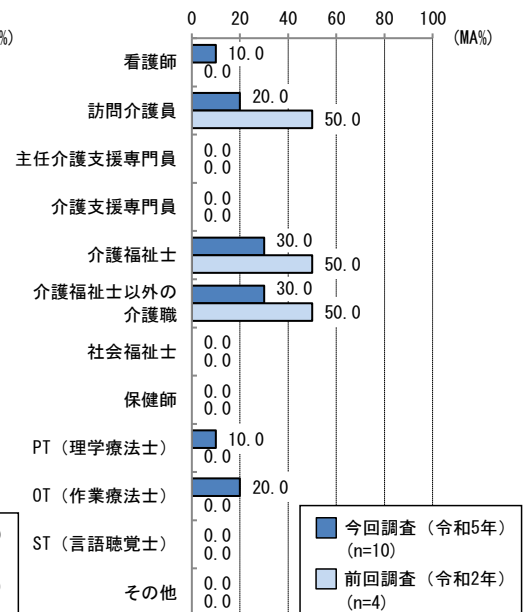
【やや不足】



【不足】



【大いに不足】



II. 調査結果 1. 介護保険サービス提供事業所調査

〔3〕人材不足の理由

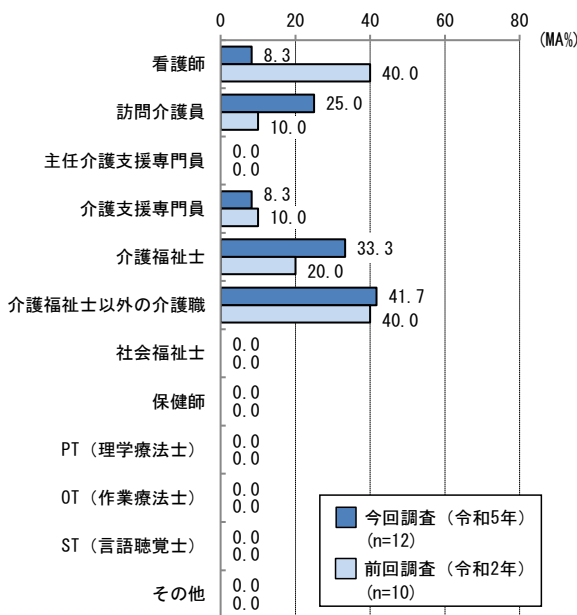
【訪問系事業所：問8、施設系・通所系事業所：問9】

前問で「3」、「4」、「5」(不足している)と回答した方のみ回答

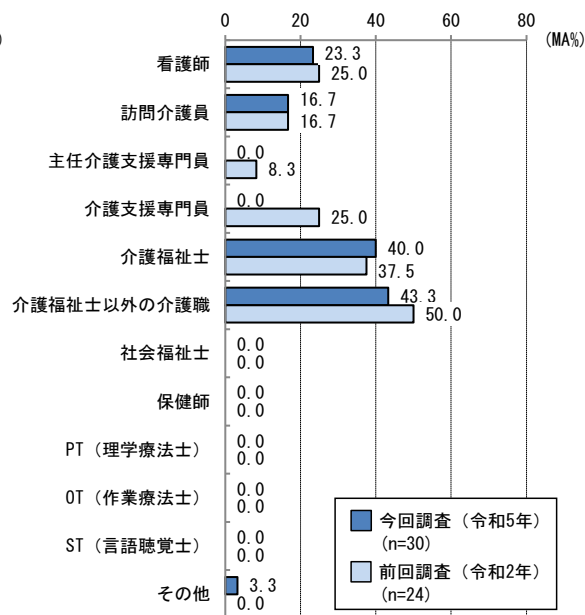
■ 不足している理由にあてはまる項目の()に前問で「3」、「4」、「5」に記入した番号を記入してください。

人材不足の理由について、「離職率が高い」では「介護福祉士以外の介護職」が41.7%と最も多くなっています。「募集しても適正な人材がない」では「介護福祉士以外の介護職」が43.3%、「介護福祉士」が40.0%、「募集しても応募がない」では「介護福祉士」が41.9%、「介護福祉士以外の介護職」が37.2%と多くなっています。

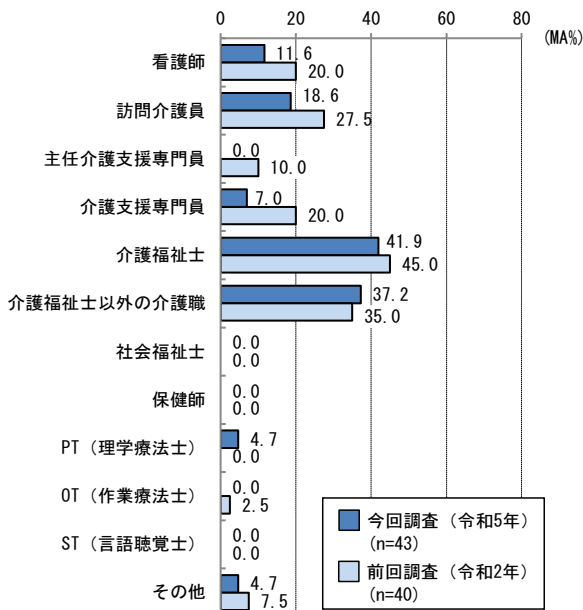
【離職率が高い】



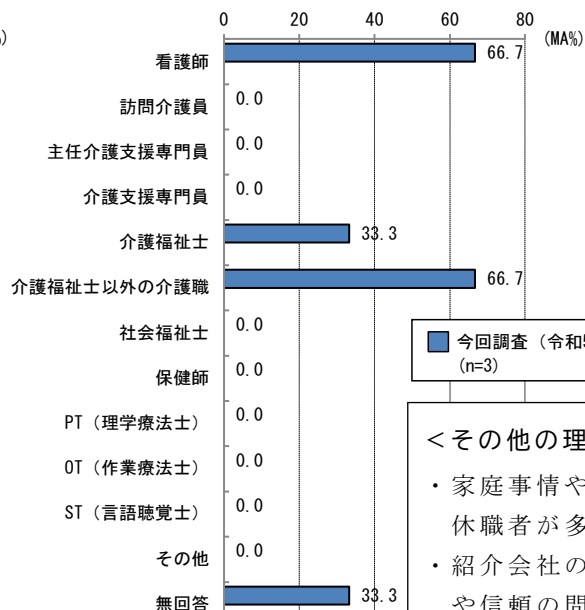
【募集しても適正な人材がない】



【募集しても応募がない】



【その他】



<その他の理由>

- ・家庭事情や体調不良等、休職者が多い
- ・紹介会社の利用は費用面や信頼の問題により利用していないため

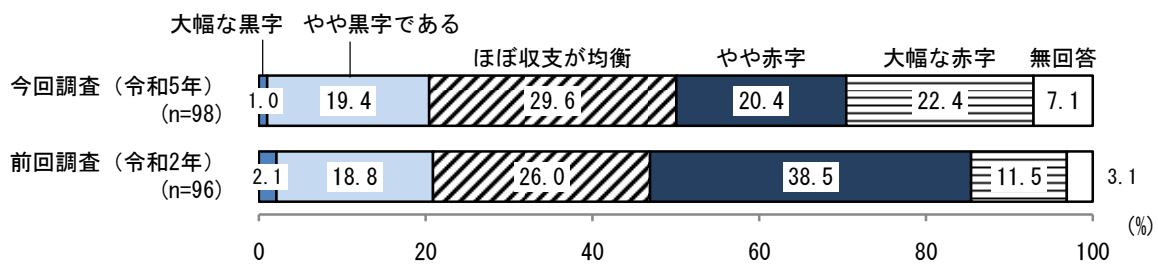
4. 運営状況について

〔1〕収支状況について

【訪問系事業所：問9、施設系・通所系事業所：問10】

■ 令和4年度の貴事業所の収支状況について、お答えください。(1つに○)

令和4年度の収支状況については、「大幅な黒字」と「やや黒字である」を合わせた『黒字』が20.4%、「大幅な赤字」と「やや赤字」を合わせた『赤字』が42.8%となっています。前回調査に比べて、『黒字』には変化はなく、『赤字』が7.2ポイント減少しています。

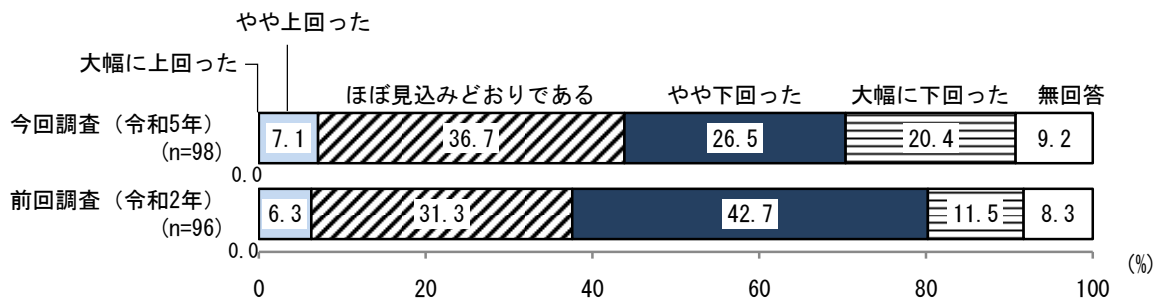


〔2〕見込みと収支状況の対比

【訪問系事業所：問10、施設系・通所系事業所：問11】

■ 前問の収支は、当初見込んだものと比較してどのような状況ですか。(1つに○)

令和4年度の収支が当初の見込みと比較して『上回った』（「大幅に上回った」と「やや上回った」の合計）は7.1%、「ほぼ見込みどおりである」が36.7%、『下回った』（「大幅に下回った」と「やや下回った」の合計）は46.9%となっています。前回調査に比べて、「ほぼ見込みどおりである」が5.4ポイント増加し、『下回った』が7.3ポイント減少しています。



II. 調査結果 1. 介護保険サービス提供事業所調査

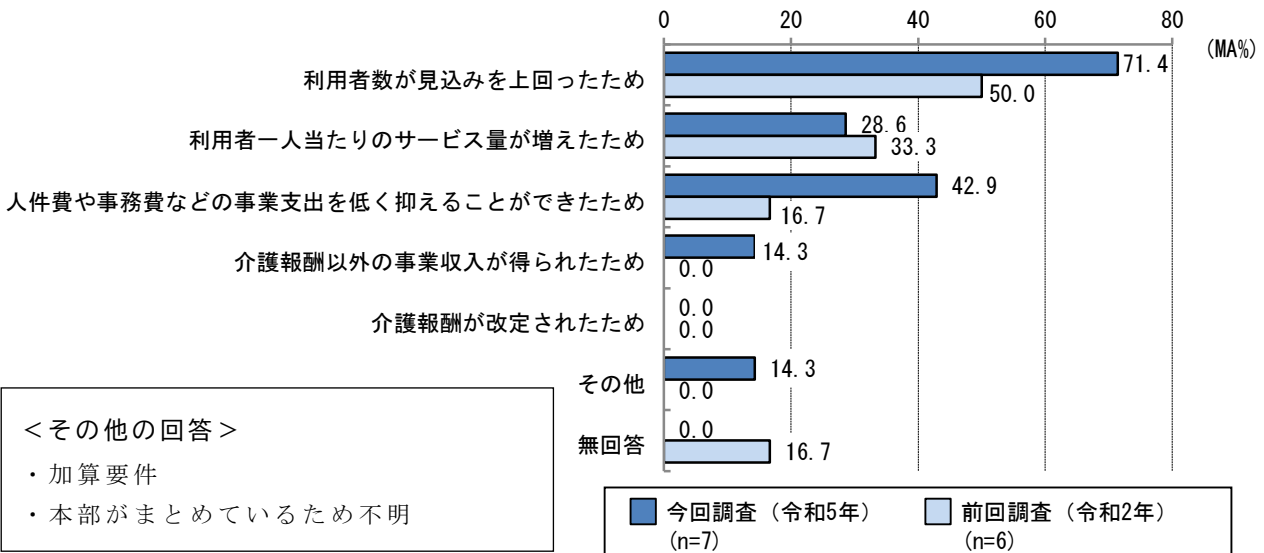
〔3〕見込みを上回った理由

【訪問系事業所：問11、施設系・通所系事業所：問12】

訪問系事業所：問10、施設系・通所系事業所：問11で「1」、「2」(上回った)と回答した方のみ回答

■ 当初見込みを上回った理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

収支が当初見込みを上回った理由は、「利用者数が見込みを上回ったため」が71.4%と最も多く、次いで、「人件費や事務費などの事業支出を低く抑えることができたため」が42.9%となっています。



<その他の回答>

- ・加算要件
- ・本部がまとめているため不明

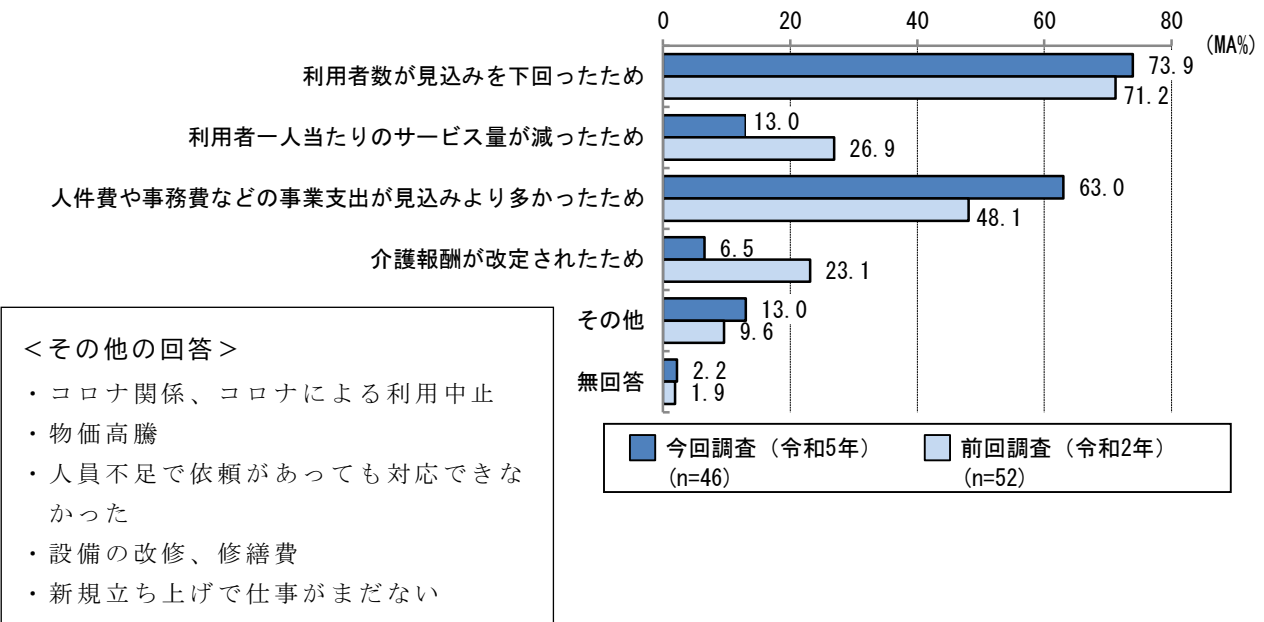
〔4〕見込みを下回った理由

【訪問系事業所：問12、施設系・通所系事業所：問13】

訪問系事業所：問10、施設系・通所系事業所：問11で「4」、「5」(下回った)と回答した方のみ回答

■ 当初見込みを下回った理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

収支が当初見込みを下回った理由は、「利用者数が見込みを下回ったため」が73.9%と最も多く、次いで、「人件費や事務費などの事業支出が見込みより多かったため」が63.0%となっています。



<その他の回答>

- ・コロナ関係、コロナによる利用中止
- ・物価高騰
- ・人員不足で依頼があっても対応できなかった
- ・設備の改修、修繕費
- ・新規立ち上げで仕事がまだない

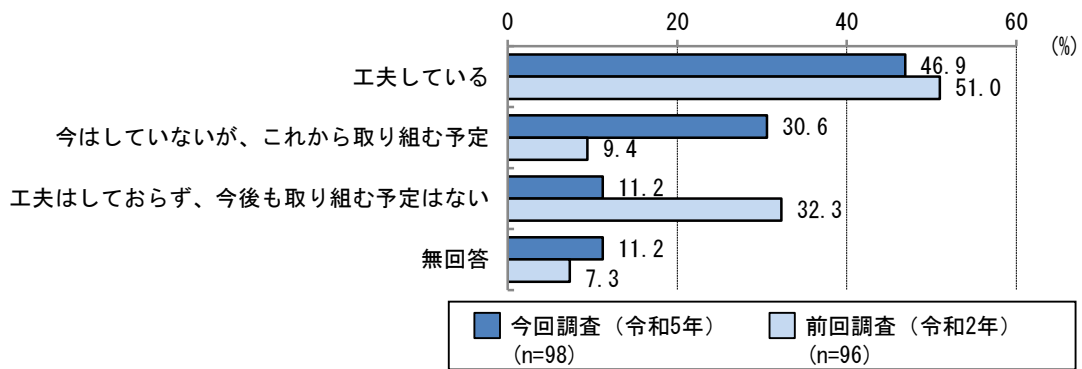
5. 介護予防・重度化防止について

〔1〕介護予防・重度化防止のケアプランの工夫

【訪問系事業所：問13、施設系・通所系事業所：問14】

■ 介護予防・重度化防止のケアプランの工夫をしていますか。(1つに○)

介護予防・重度化防止のケアプランを「工夫している」は46.9%、「今はしていないが、これから取り組む予定」が30.6%となっています。前回調査に比べて、今はしていないが、これから取り組む予定」が21.2ポイント増加しています。



【訪問系事業所：問14、施設系・通所系事業所：問15】

訪問系事業所：問13、施設系・通所系事業所：問14で「1」、「2」と回答した方のみ回答

■ 工夫している、または工夫予定の内容は何ですか。

68件（のべ85件）のご意見がありました。主な内容は下記のとおりです。

ご意見内容	件数
スタッフ、事業所間の連携、介護職員、看護師、ケアマネジャーなど多職種の連携	15件
残存機能を生かし、自立を促す支援	14件
認知症予防。脳トレなど頭の体操、手先を使うレクリエーションの実施	9件
個々の体力や生活環境、ニーズに合った個別のプラン	8件
機能訓練	8件
体操、運動、体力強化	7件
専門職によるリハビリテーションの提供	6件
プラン内容に予防プラン、セルフケア	4件
日常生活リハビリを考えたプラン作成	3件
口腔ケア	2件
クラブ活動や外出行事	2件

II. 調査結果 1. 介護保険サービス提供事業所調査

ご意見内容	件数
その他 ・介護ロボット導入 ・イベントやボランティア誘致を行い、プランに関連付けられるようにしている ・思案中 ・介護予防についてはチャレンジしたいが現状ままならない ・現状が精一杯でなかなか考える時間はない など	7件

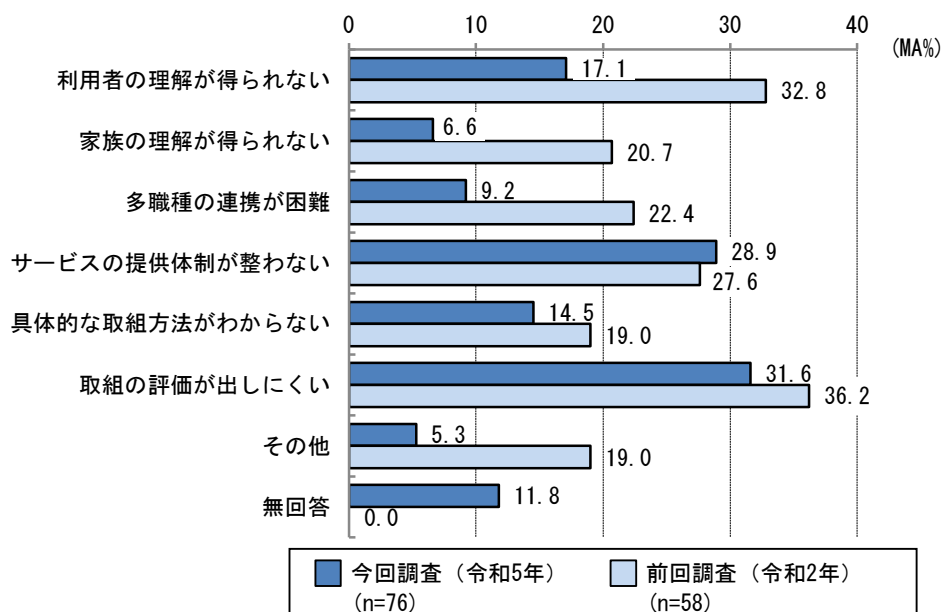
〔2〕取組に対する課題

【訪問系事業所：問15、施設系・通所系事業所：問16】

訪問系事業所：問13、施設系・通所系事業所：問14で「1」、「2」と回答した方のみ回答

■ 取組に対する課題は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

取組に対する課題は、「取組の評価が出しにくい」が31.6%と最も多く、次いで、「サービスの提供体制が整わない」が28.9%となっています。



<その他の回答>

- ・施設面積が狭い
- ・加算として扱うと業務過多になるため、あくまでもサービスとして扱っている点
- ・感染予防対応、物価高騰などで経費がかかり、公定価格でもあるため収支バランスの維持をとることが難しい

〔3〕工夫していない理由(自由記述)

【訪問系事業所：問16、施設系・通所系事業所：問17】

訪問系事業所：問13、施設系・通所系事業所：問14で「3」と回答した方のみ回答

■ 「工夫はしておらず、今後も取り組み予定はない」理由を記入してください。

11 件のご意見がありました。主な内容は下記のとおりです。

ご意見内容
人材不足で通常の介護を行うことで精一杯であるため
現在介護職等人手が足りていないため予防は行っていないが、来所時にはレクリエーションとして身体を動かすプログラムに参加いただいている
サービスの提供体制が整わない
ケアの統一が難しい
介護度が高い利用者が多く、重度化防止できず
利用者ゼロ、中止を検討中

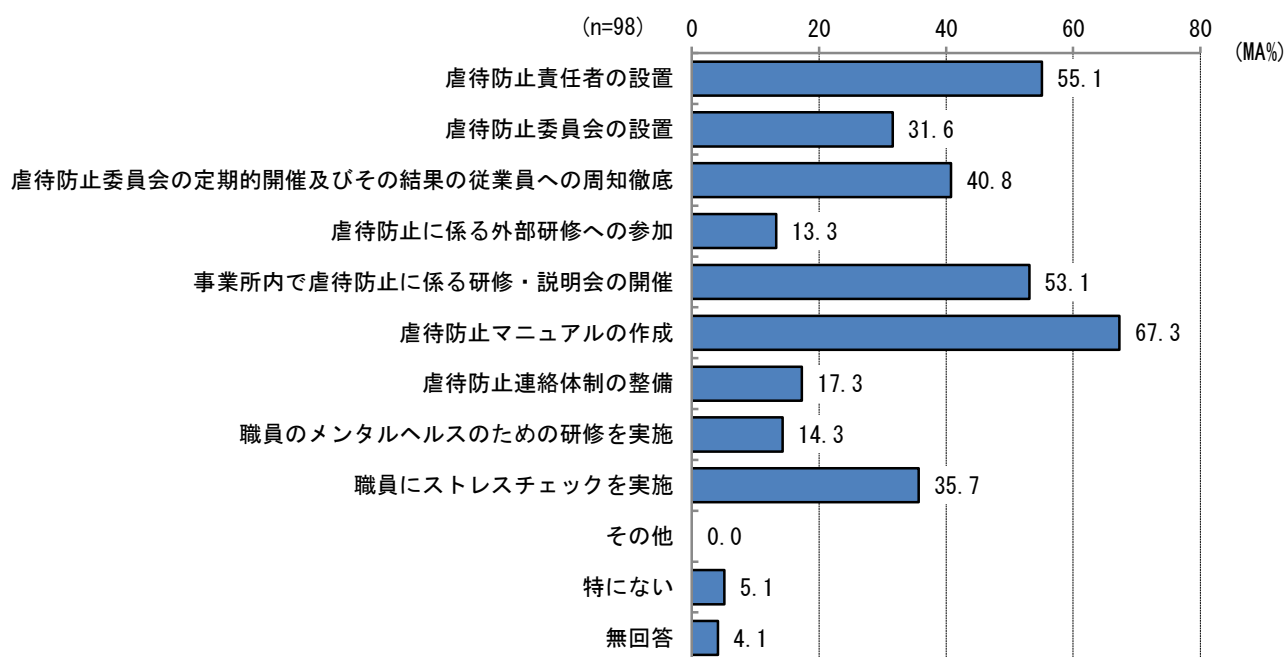
6. その他

〔1〕虐待防止の取組（新規設問）

【訪問系：問17、施設系・通所系事業所：問18】

■ 貴事業所では、虐待防止対策についてどのような取り組みをしていますか。
（あてはまるものすべてに○）

虐待防止対策の取組では、「虐待防止マニュアルの作成」が67.3%と最も多く、次いで、「虐待防止責任者の設置」が55.1%、「事業所内で虐待防止に係る研修・説明会の開催」が53.1%となっています。

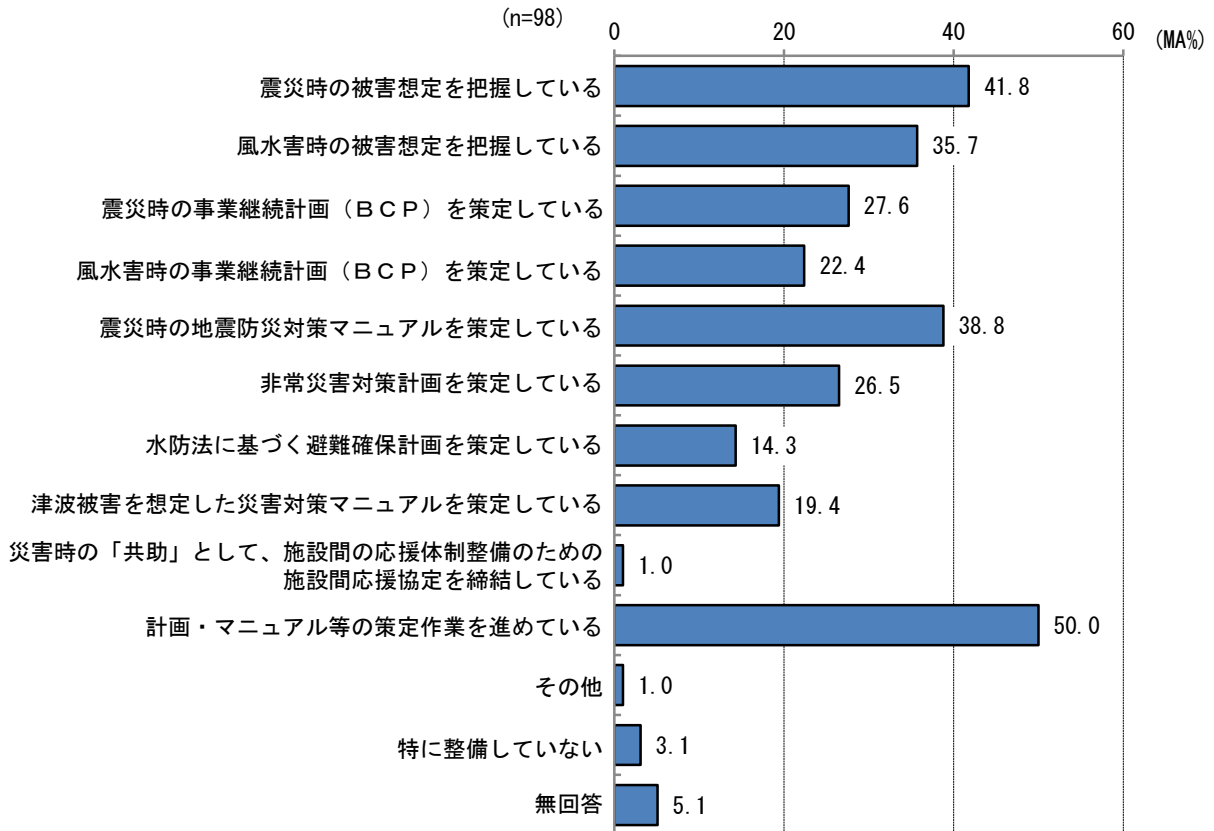


〔2〕災害時の対策（新規設問）

【訪問系事業所：問18、施設系・通所系事業所：問19】

■ 貴事業所では、災害発生時から業務復旧までの計画等、災害時の対策をされていますか。（あてはまるものすべてに○）

災害時の対策では、「計画・マニュアル等の策定作業を進めている」が50.0%と最も多く、次いで、「震災時の被害想定を把握している」が41.8%、「震災時の地震防災対策マニュアルを策定している」が38.8%となっています。



<「特に整備していない」理由>

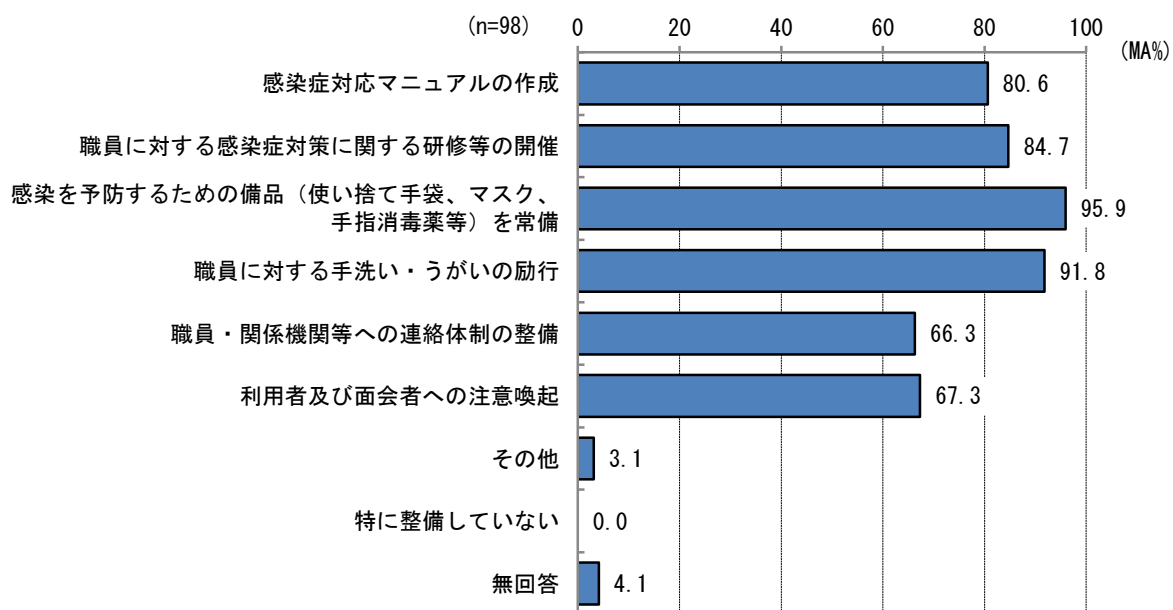
- ・これからBCPを策定する予定。震災時、風水害時の被害は想定しているが、把握まではしていないのでこれから取り組む予定
- ・立ち上げたばかりなので、今後、職員と共に検討していく

〔3〕感染症対策の取組(新規設問)

【訪問系事業所：問19、施設系・通所系事業所：問20】

■ 貴事業所では、感染症対策についてどのような取り組みをしていますか。
(あてはまるものすべてに○)

感染症対策の取組では、「感染を予防するための備品（使い捨て手袋、マスク、手指消毒薬等）を常備」が95.9%と最も多く、次いで、「職員に対する手洗い・うがいの励行」が91.8%、「職員に対する感染症対策に関する研修等の開催」が84.7%、「感染症対応マニュアルの作成」が80.6%となっています。



<その他の回答>

- ・ 3日に1回PCR検査
- ・ 従事者、外部出入業者等に対して、3日に1回抗原検査を行っている

[4]新型コロナウイルス感染症の影響(自由記述)(新規設問)

【訪問系事業所:問20、施設系・通所系事業所:問21】

■ 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響についておうかがいします。コロナ禍において、事業所の運営(収支に関することを含む)やサービスの提供に何か変化したことや対策されたこと、ご苦労されたこと等、また、サービス利用者から聞いている困りごと等がありましたら、ご自由にお書きください。

56件(のべ99件)のご意見がありました。主な内容は下記のとおりです。

ご意見内容	件数
■事業所運営やサービスの提供に関すること	
利用のキャンセル、新規利用者の減少、サービス休止による減収	14件
職員の欠勤による人材不足、シフト変更への対応	14件
利用者の受け入れ制限や、面会、外出、レクレーション活動の制限	13件
感染防止対策を徹底、強化した	12件
利用者や家族に感染者・濃厚接触者が出たときの対応 (訪問ができない、隔離が困難、入院待機中の対応が必要だった など)	10件
利用者や家族に感染対策への理解を得るのに苦労した、クレームが増えた	8件
感染対策に費用がかかった	6件
職員の心理的、時間的な負担が増えた (サービス時間超過、マスクや手袋で介護がしづらい など)	4件
家族への連絡、連携強化	2件
■利用者に関すること	
ADLの低下、認知症の進行、外出制限などによる不安やストレスの増大	6件
■その他	10件
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の減少や集団感染もなく、事業所を閉めることもあまりなかった ・5類に下がり、利用者からマスクを外せと言われ、やや困っている ・5類に下がり、外出の制限も解除したため、新規入居が増えるよう活動したい ・コロナ対応をする中で、勘違いや知識不足から起こる不安の方が多かった ・コロナに対しては和泉保健所からの依頼を「泉大津モデル」として、医師会と協力し対応してきたが、賛同してくれる医療機関や訪問看護ステーションが少ない。行政、泉大津市内の事業所、市民、全体の協働が必須であるため、行政からのお導きをお願いしたい 	
など	

7. 介護人材実態調査

- ・介護人材実態調査では、介護人材の性別・年齢構成、資格保有状況、過去1年間の採用・離職の状況などを把握し、地域内の介護人材の確保などにつなげていくことを目的としています。
- ・調査の対象は、通所系事業所、施設・居住系事業所です。

〔1〕介護職員数とその変化(訪問系事業所を含む)

正規職員、非正規職員別に介護職員の人数をたずねたところ、回答のあった事業所全体で、正規職員が723人、非正規職員が454人の合計1,177人となっています。

また、過去1年間(令和4年1月1日～令和4年12月31日)の採用者数、離職者数から介護職員数の変化をみると、訪問系事業所は昨年比111.8%と増加、通所系事業所は99.6%とやや減少、施設・居住系事業所では101.5%とやや増加しています。通所系、施設・居住系事業所では正規職員が昨年比95%台とやや減少し、非正規職員が増加しています。

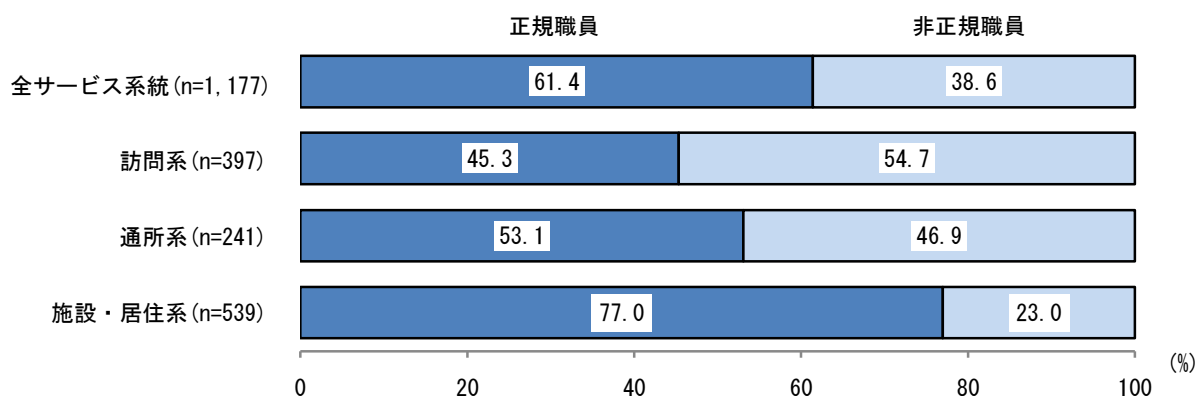
【介護職員の総数と過去1年間の採用者数、離職者数】

サービス系統 (該当事業所数)	職員総数			採用者数			離職者数			昨年比		
	正規	非正規	小計	正規	非正規	小計	正規	非正規	小計	正規	非正規	小計
全サービス系統 (n=98)	723人	454人	1177人	122人	155人	277人	129人	115人	244人	99.0%	109.7%	102.9%
訪問系 (n=37)	180人	217人	397人	44人	81人	125人	27人	56人	83人	110.4%	113.0%	111.8%
通所系 (n=31)	128人	113人	241人	20人	27人	47人	26人	22人	48人	95.5%	104.6%	99.6%
施設・居住系 (n=30)	415人	124人	539人	58人	47人	105人	76人	37人	113人	95.8%	108.8%	101.5%

〔2〕雇用形態(訪問系事業所を含む)

正規職員と非正規職員の割合は、全体では正規職員が61.4%、非正規職員が38.6%と正規職員が多くなっていますが、訪問系事業所では非正規職員が54.7%とやや多く、通所系事業所では正規職員が半数強(53.1%)、施設・居住系事業所では正規職員が77.0%と多くなっています。

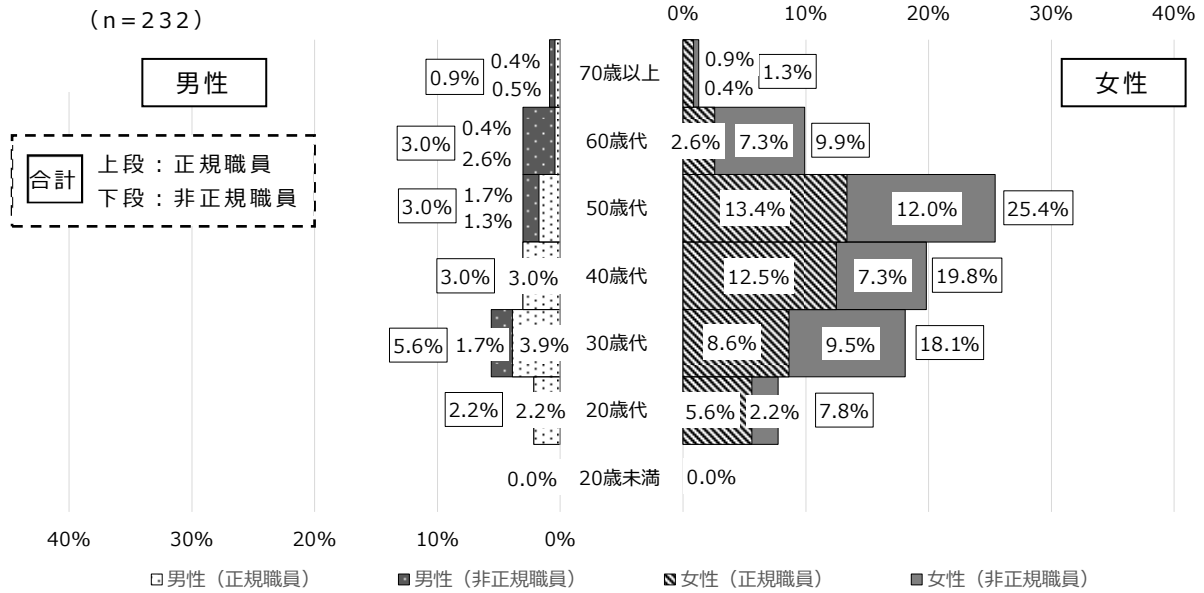
【サービス系統別 正規職員・非正規職員の割合】



II. 調査結果 1. 介護保険サービス提供事業所調査

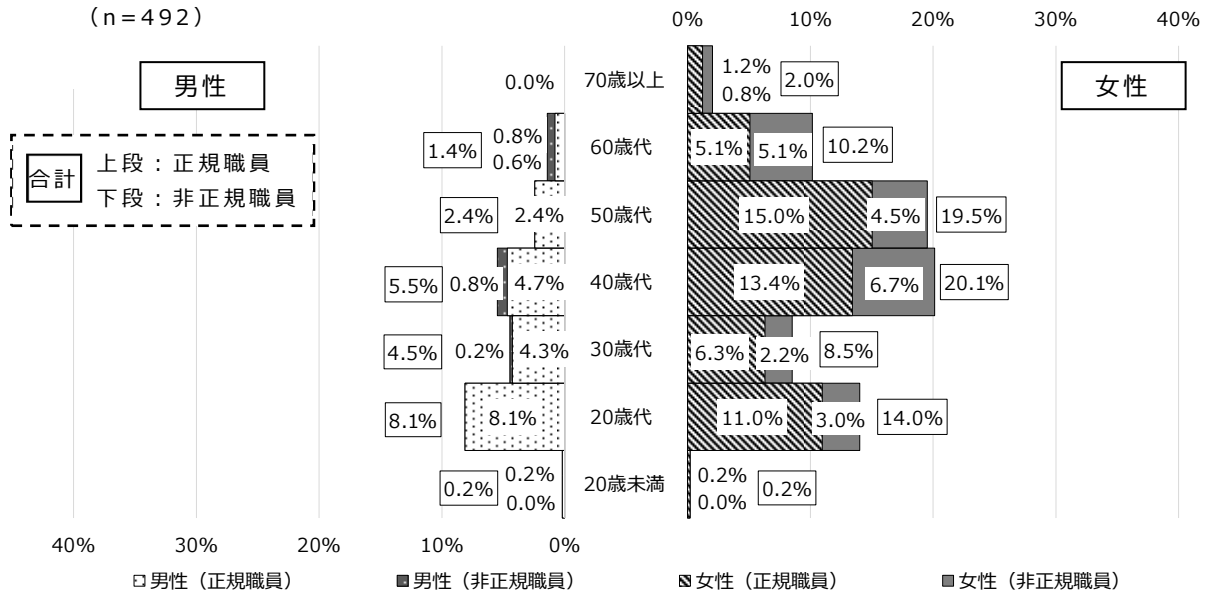
性別・年齢別の雇用形態の構成比をサービス別にみると、通所系事業所では女性50歳代が中心で、非正規職員の割合も多くなっています。施設・居住系事業所は通所系に比べて正規職員の割合が多く、また、男性の割合も多くなっています。

【性別・年齢別の雇用形態の構成比 通所系】



※分母には年齢・雇用形態不詳の方を含めて割合を算出。

【性別・年齢別の雇用形態の構成比 施設・居住系】



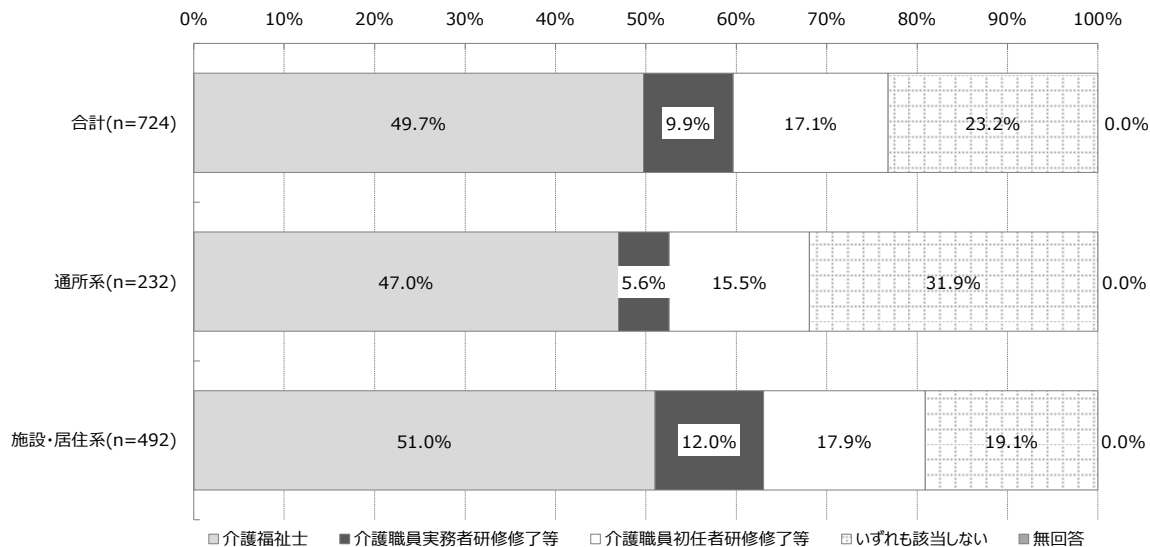
※分母には年齢・雇用形態不詳の方を含めて割合を算出。

II. 調査結果 1. 介護保険サービス提供事業所調査

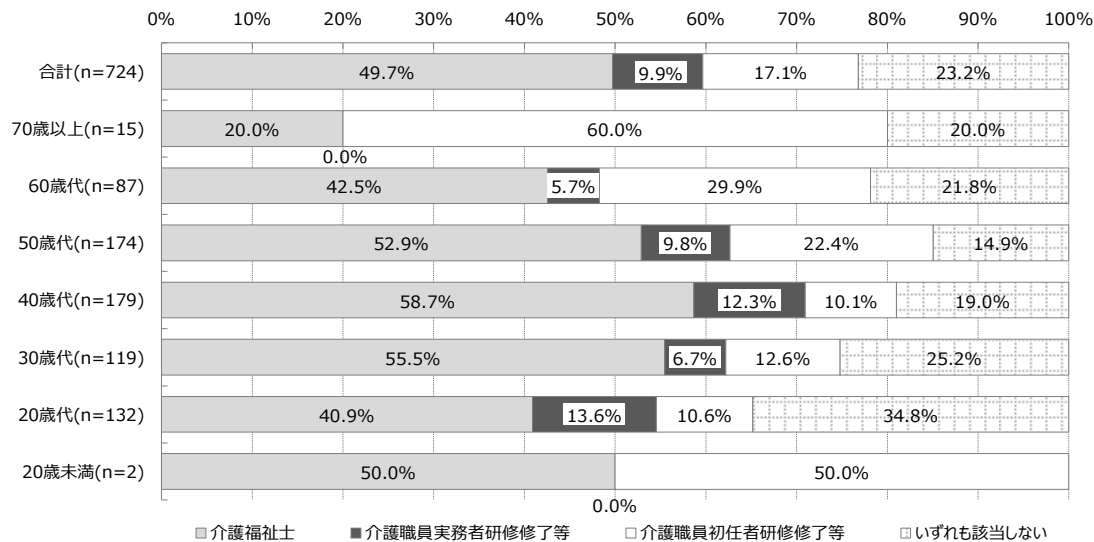
[3] 資格保有の状況

市内の通所系事業所、施設・居住系事業所で働く介護職員の資格保有の状況は、「介護福祉士」が49.7%、「介護職員実務者研修修了等」が9.9%、「介護職員初任者研修修了等」が17.1%となっています。

【サービス系統別 資格保有の状況】



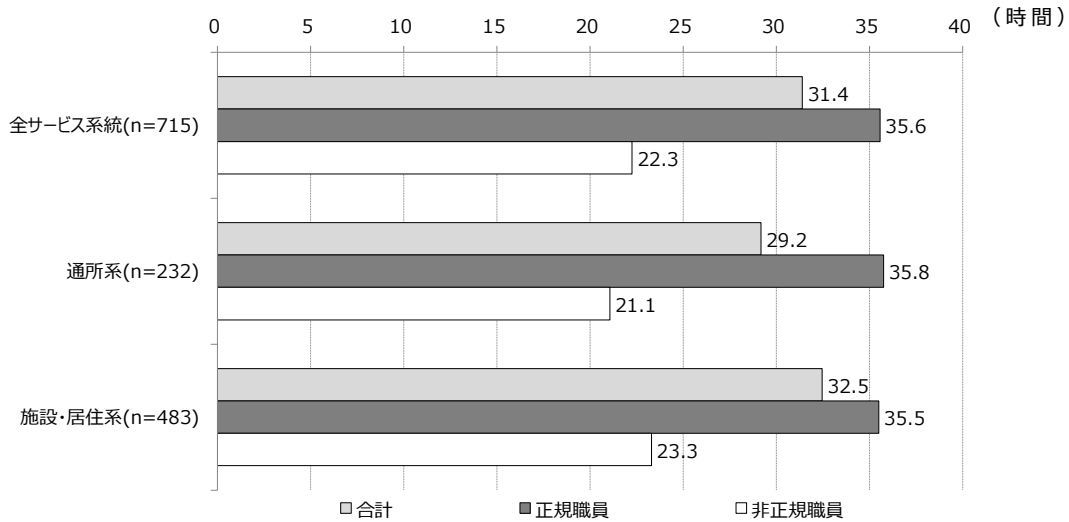
【年齢別 資格保有の状況】



〔4〕職員1人あたりの1週間の勤務時間

職員1人あたりの1週間の勤務時間は、正規職員で35.6時間、非正規職員で22.3時間となっています。

【サービス系統別 職員1人あたりの1週間の勤務時間】



〔5〕過去1年間の介護職員の職場の変化

現在の事業所等での勤務年数が1年未満で、前職も介護職であると回答のあった職員は82人で、その方たちの直前の職場については、「同一市区町村」が3.7%、「他の市区町村」が89.0%と、「他の市区町村」からの転職者が多くなっています。

【前の職場が介護事業所である職員の前の職場の場所】

前の職場の場所	現在の職場					
	全サービス系統		通所系		施設・居住系	
合計	82人	100.0%	25人	100.0%	57人	100.0%
同一市区町村	3人	3.7%	2人	8.0%	1人	1.8%
他の市区町村	73人	89.0%	20人	80.0%	53人	93.0%

※「合計」には前の職場の場所が不詳の方を含む。

8. 居所変更実態調査

- ・居所変更実態調査では、過去1年間で施設・居住系サービスから居所を変更した方の人数や、その理由等を把握し、施設・居住系サービスでの生活の継続性を高めるために必要な機能や、外部サービス資源との連携等を検討し、具体的な取組につなげていくことを目的としています。
- ・調査の対象は、施設・居住系事業所です。

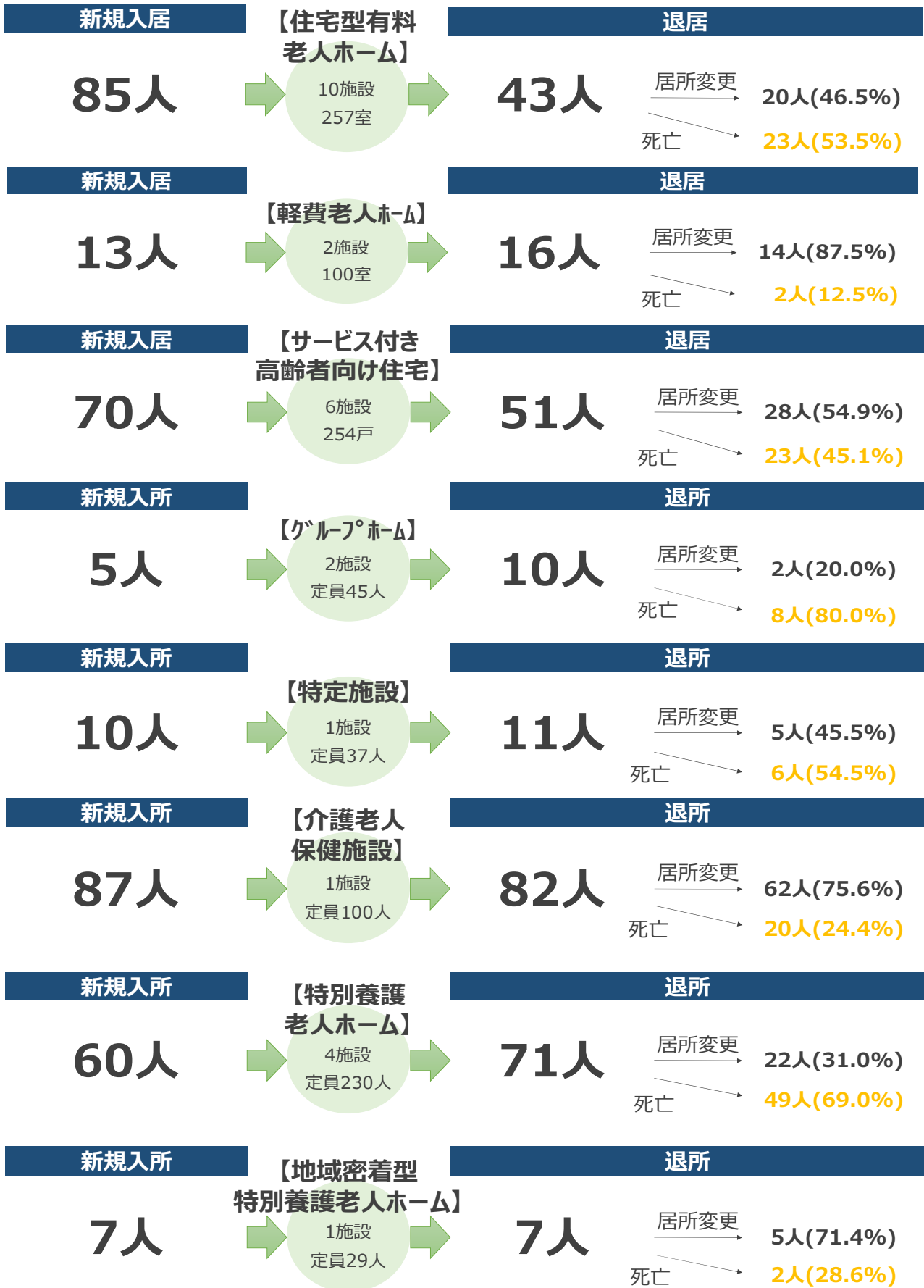
〔1〕過去1年間の退居・退所者に占める居所変更・死亡の割合

施設・居住系事業所の、過去1年間（令和4年1月1日～令和4年12月31日）の退居・退所者数と、退居・退所後の居場所についてたずねたところ、退居・退所者全体の54.3%が「居所変更」、45.7%が「死亡」となっています。

サービス種別にみると、住宅型有料老人ホーム、グループホーム、特定施設、特別養護老人ホームでは「居所変更」より「死亡」の割合が多く、これらの施設が看取りまで対応する役割を持っていることがうかがえます。

サービス種別	居所変更	死亡	合計
住宅型有料老人ホーム (n=10)	20人	23人	43人
	46.5%	53.5%	100.0%
軽費老人ホーム (n=2)	14人	2人	16人
	87.5%	12.5%	100.0%
サービス付き高齢者向け住宅 (n=6)	28人	23人	51人
	54.9%	45.1%	100.0%
グループホーム (n=2)	2人	8人	10人
	20.0%	80.0%	100.0%
特定施設 (n=1)	5人	6人	11人
	45.5%	54.5%	100.0%
介護老人保健施設 (n=1)	62人	20人	82人
	75.6%	24.4%	100.0%
特別養護老人ホーム (n=4)	22人	49人	71人
	31.0%	69.0%	100.0%
地域密着型特別養護老人ホーム (n=1)	5人	2人	7人
	71.4%	28.6%	100.0%
合計 (n=27)	158人	133人	291人
	54.3%	45.7%	100.0%

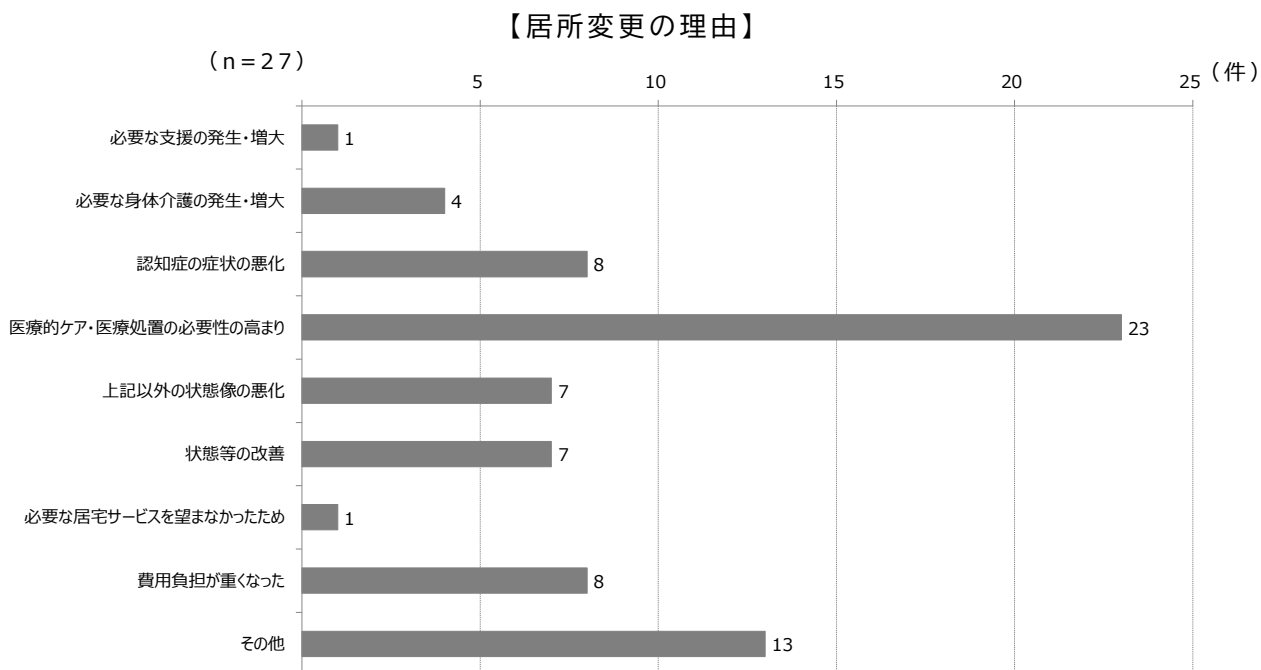
【過去1年間の施設等の入居・入所及び退居・退所の流れ】



II. 調査結果 1. 介護保険サービス提供事業所調査

〔2〕居所変更の理由

施設等の入居・入所者が居所を変更する理由についてたずねたところ、「医療的ケア・医療処置の必要性の高まり」が23件と最も多くなっています。



※「上位3つ」について回答したものの合計。(複数回答)

参考

【居所変更の理由 サービス種別】

(件)

	必要な支援の発生・増大	必要な身体介護の発生・増大	認知症の症状の悪化	医療的ケア・医療処置の必要性の高まり	上記以外の状態像の悪化	状態等の改善	必要な居宅サービスを望まなかったため	費用負担が重くなった	その他
住宅型有料老人ホーム		1	4	8	1	2	1	4	5
軽費老人ホーム		2	1	2	1				
サービス付き高齢者向け住宅	1		2	5	3	3		2	1
グループホーム				2				1	1
特定施設				1				1	1
介護老人保健施設									1
特別養護老人ホーム				4					4
地域密着型特別養護老人ホーム		1	1	1	2	2			
計	1	4	8	23	7	7	1	8	13

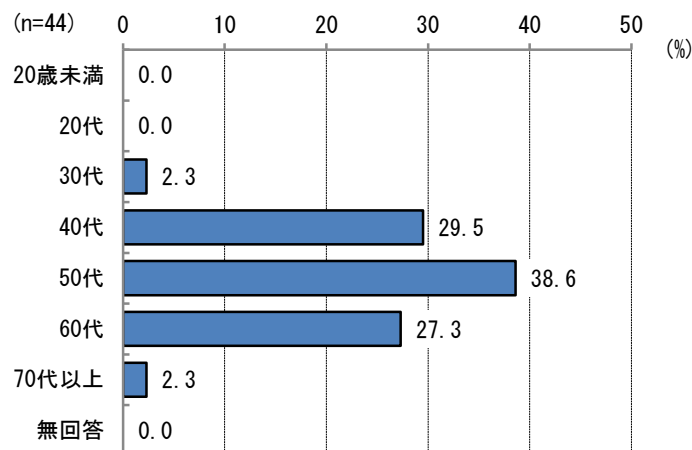
2. ケアマネジャーに関する調査

1. 介護支援専門員について

[1] 年齢

問1 あなたの年齢について、あてはまるものに○印をつけてください。

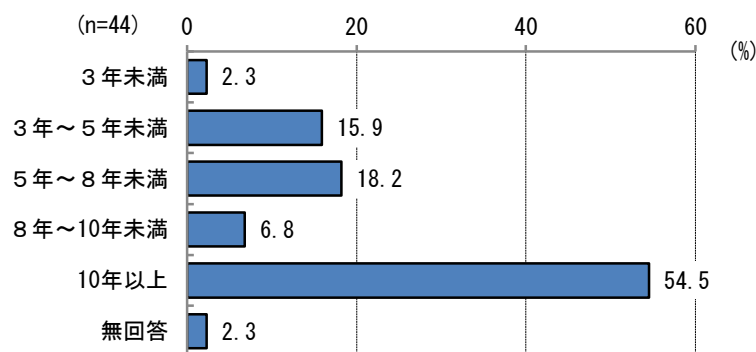
年齢は、「50代」が38.6%と最も多く、次いで、「40代」が29.5%、「60代」が27.3%となっています。



[2] 実務経験年数

問2 あなたの介護支援専門員としての実務経験年数を記入してください。

介護支援専門員としての実務経験年数は、「10年以上」が54.5%と最も多く、次いで、「5年～8年未満」が18.2%、「3年～5年未満」が15.9%となっています。

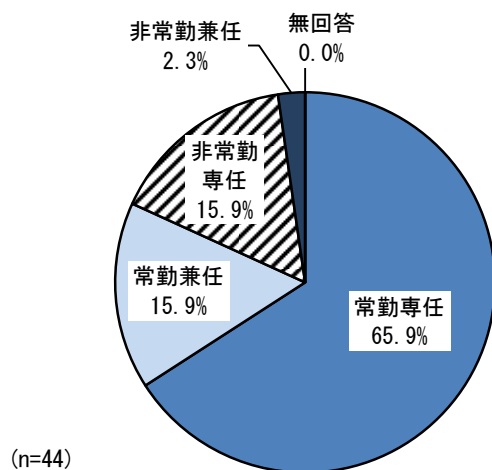


II. 調査結果 2. ケアマネジャーに関する調査

[3]勤務形態

問3 あなたの勤務形態について、あてはまるものに○印をつけてください。

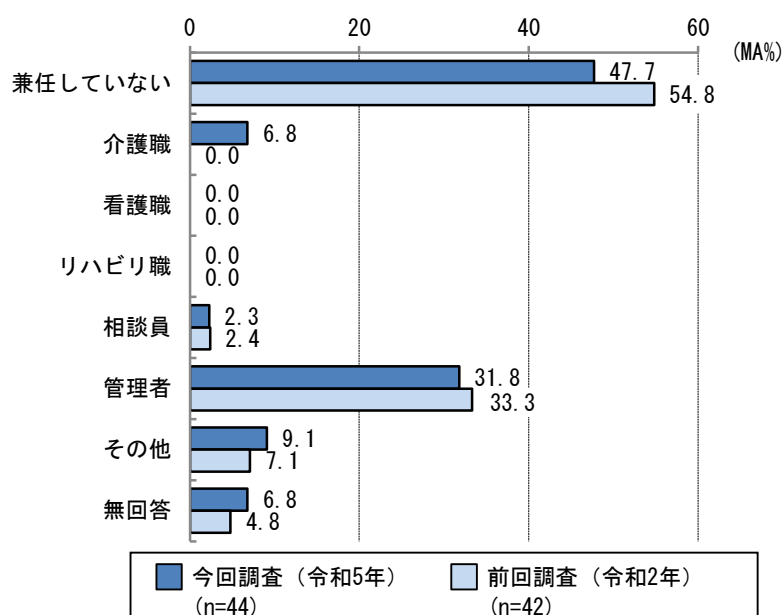
勤務形態は、「常勤専任」が 65.9%と最も多く、次いで、「常勤兼任」、「非常勤専任」がそれぞれ 15.9%となっています。



[4]他の業務との兼任

問4 介護支援専門員以外の業務と兼任していますか。(いくつでも)

介護支援専門員以外の業務との兼任については、「兼任していない」が 47.7%と最も多く、次いで、「管理者」が 31.8%となっています。前回調査に比べて、「介護職」との兼任が 6.8 ポイント増加しています。



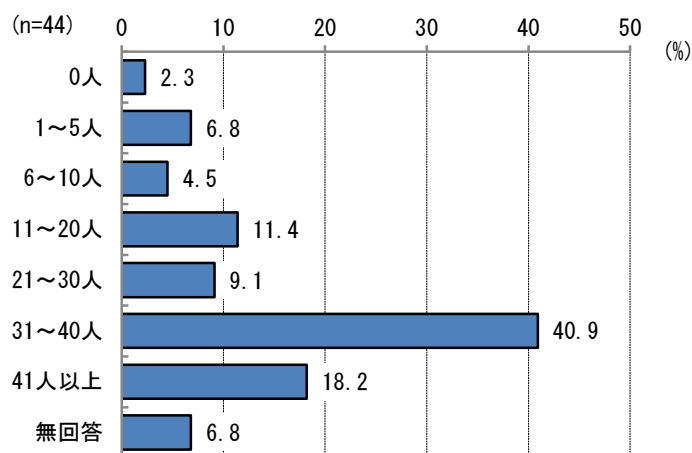
<その他の回答>

- ・施設長
- ・法人代表

[5]担当利用者数

問5 令和5年5月1日現在、担当している利用者数についておうかがいします。
①何人を担当されていますか

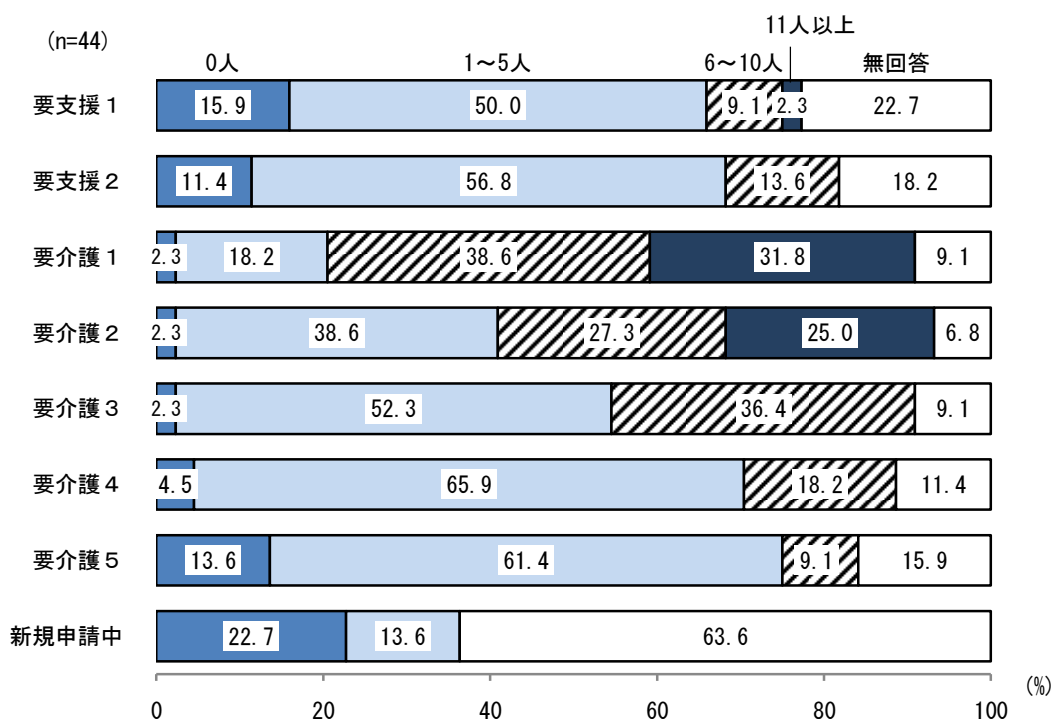
担当している利用者数は、「31～40人」が40.9%と最も多く、次いで、「41人以上」が18.2%、「11～20人」が11.4%となっています。



[6]担当する利用者の要介護度

②上記の担当者数について、要支援・要介護度別の人数の内訳を記入してください。

担当する利用者の要介護度の内訳をみると、「要介護1」、「要介護2」の人数が多く、「6～10人」、「11人以上」の合計が、「要介護1」で70.4%、「要介護2」で52.3%となっています。

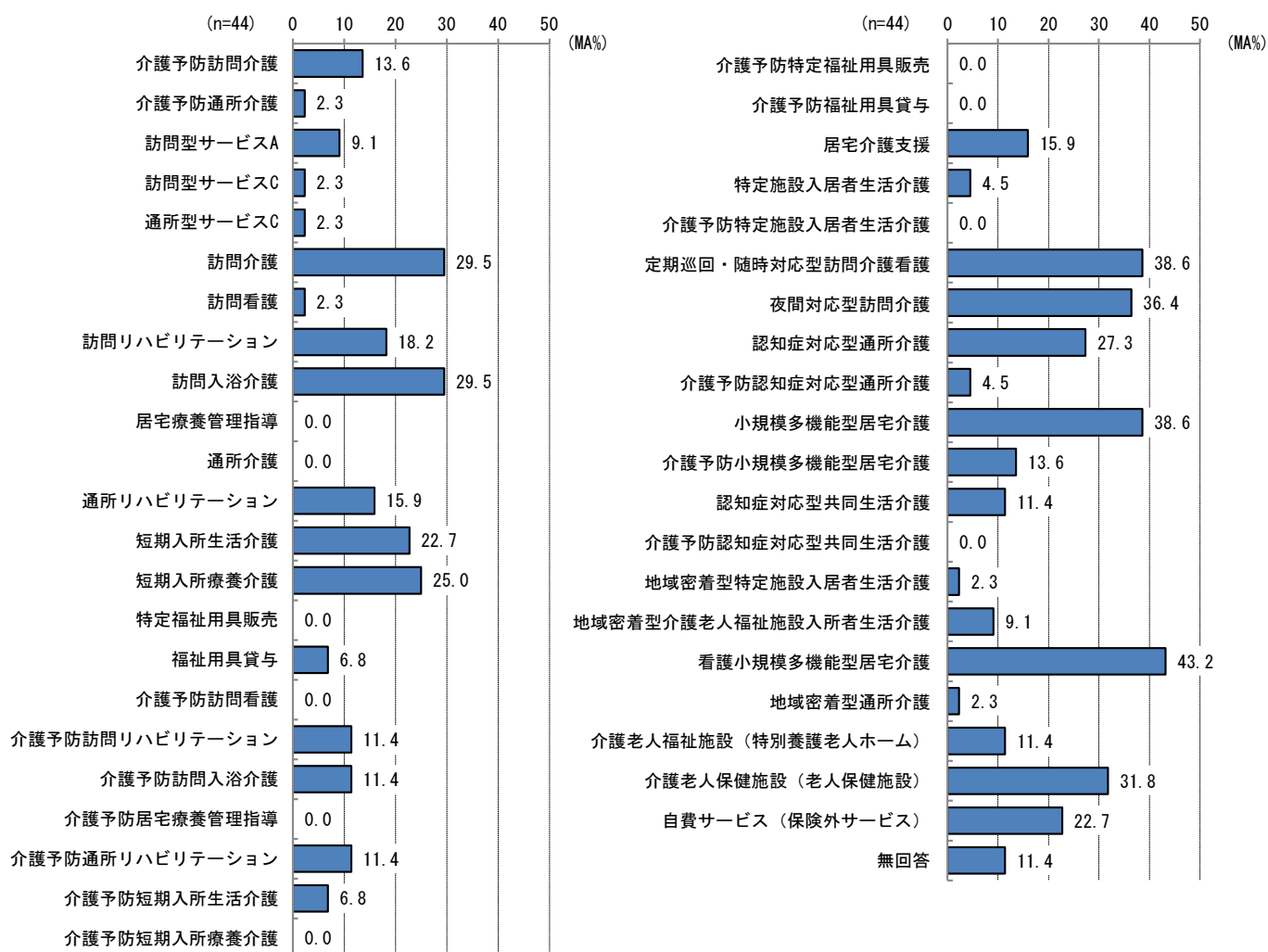


2. 必要と感じるサービスについて

〔1〕泉大津市に不足しているサービス

問6 泉大津市に不足していると感じる介護保険サービスはありますか。(いくつでも)

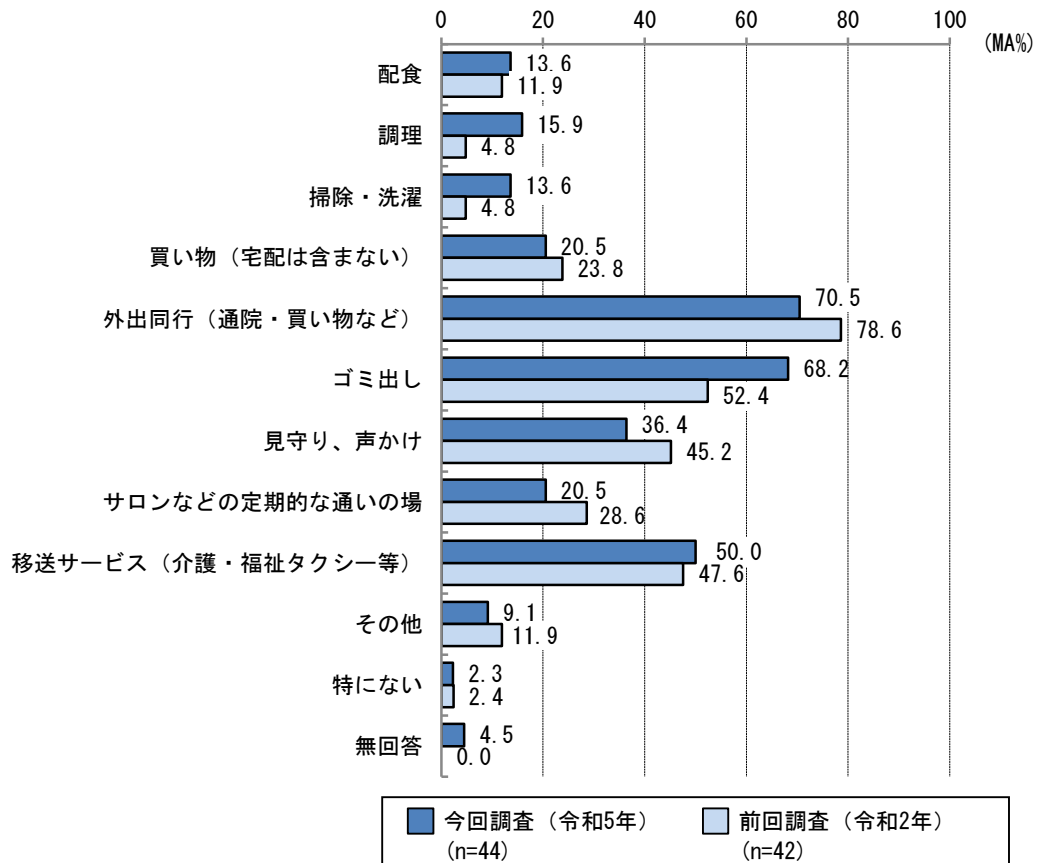
泉大津市に不足していると感じる介護保険サービスは、「看護小規模多機能型居宅介護」が43.2%と最も多く、次いで、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」、「小規模多機能型居宅介護」がそれぞれ38.6%、「夜間対応型訪問介護」が36.4%となっています。



〔2〕介護保険サービス以外にあればよい支援

問7 介護保険サービス以外にあればよいと思う支援はありますか。(いくつでも)

介護保険サービス以外にあればよいと思う支援は、「外出同行（通院・買い物など）」が70.5%と最も多く、次いで、「ゴミ出し」が68.2%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が50.0%となっています。前回調査に比べて、「ゴミ出し」は15.8ポイント、「調理」が11.1ポイント増加しています。



- <その他の回答>
- ・いろいろな付き添い
 - ・金銭管理等の代行サービス
 - ・訪問診療、訪問美容、訪問話し相手
 - ・短期集中型通所サービス

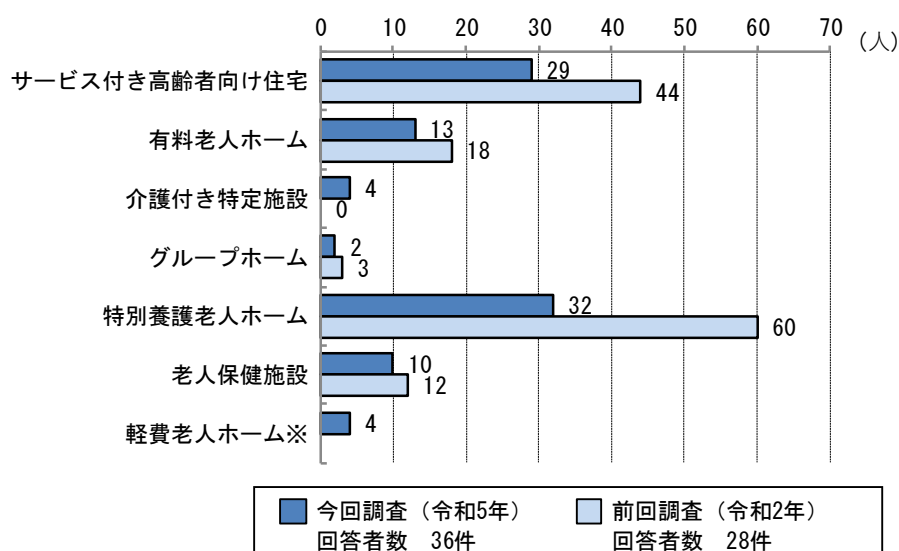
3. 利用者の施設入居の希望について

〔1〕施設等への入居希望者数

居宅(在宅)ケアマネジャーの方のみ回答

問8 現在担当している利用者で施設等への入居希望者はいますか。施設別に入居を希望している人数をご記入ください。
 利用者に複数の希望がある場合は、第一希望のみ加算してください。

居宅（在宅）ケアマネジャーの方に、担当する利用者のうち施設等への入居希望者数をたずねたところ、「特別養護老人ホーム」が32人と最も多く、次いで、「サービス付き高齢者向け住宅」が29人となっています。



※グラフの数値は入居希望人数の合計。

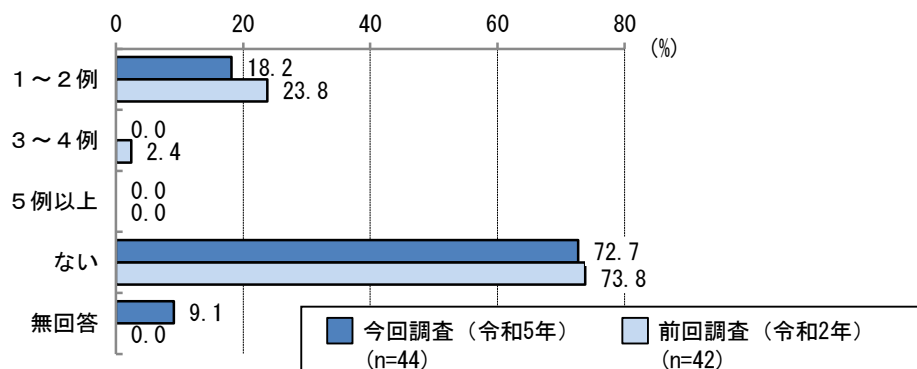
※「軽費老人ホーム」は前回調査では項目なし。

4. 虐待について

〔1〕虐待の疑いがあった事例数

問9 あなたが担当された利用者のうち、直近1年間で虐待を受けていると思われる利用者はどれくらいいますか。(1つだけ)

直近1年間で虐待の疑いがあった事例数は、「1～2例」が18.2%となっています。



〔2〕遭遇した虐待事例と対応方法

問9で「1」、「2」、「3」と回答した方のみ回答

問10 遭遇した虐待事例はどのようなものですか。またどのように対応しましたか。遭遇した事例の()に、対応方法について該当する番号を下記から選り記入してください。また、「10. その他」を選んだ場合は、具体的な対応方法を記入してください。

虐待の疑いがある利用者が『いる』と回答した方に、遭遇した虐待事例についてたずねたところ、身体的虐待が5件と最も多く、心理的虐待、ネグレクトが各2件、金銭的虐待、その他が各1件となっています。またその対応は、「市役所に相談」が合計7件と最も多く、「地域包括支援センターに相談」、「主治医に相談」が5件ずつとなっています。

【遭遇した虐待事例と対応方法】

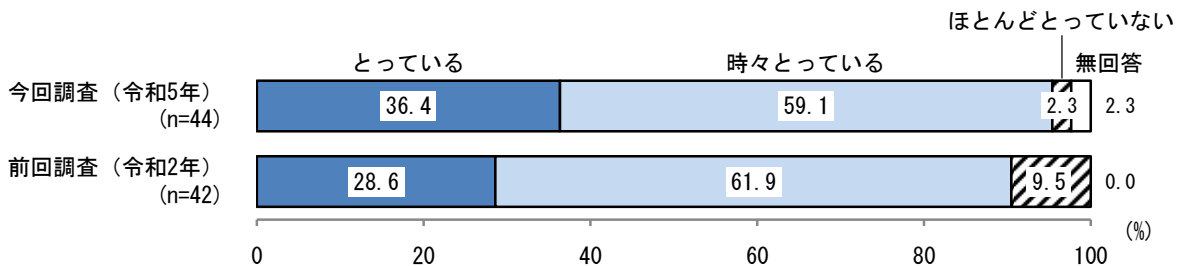
	n	対応方法 (件)											
		市役所に相談	地域包括支援センターに相談	事業所内で相談	主治医に相談	サービス担当者会議を開催	家族などと相談	警察に相談	門別事業所の介護支援専門員に相談	居宅介護支援会に相談	その他	相談しなかった	
心理的虐待	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
身体的虐待	5	3	3	2	3	2	2	1	0	0	0	2	0
金銭的虐待	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ネグレクト	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0
その他	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	0	0

5. 医療との連携について

〔1〕主治医との連絡状況

問11 利用者の病状や健康状態について主治医と連絡をとっていますか。(1つだけ)

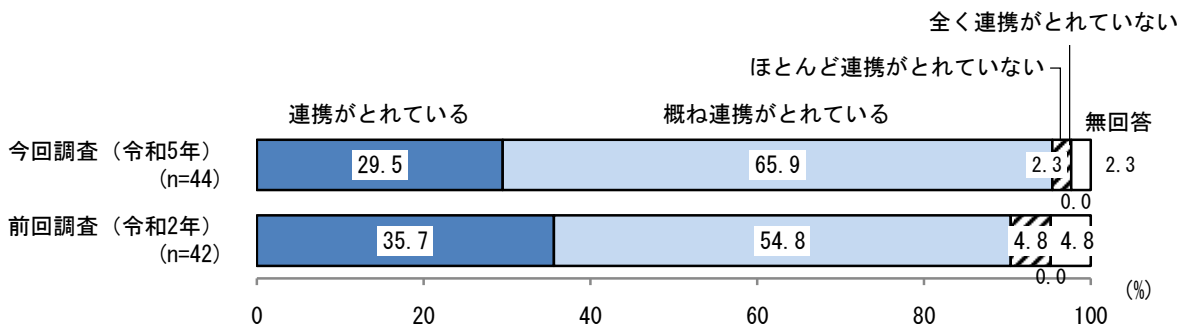
利用者の病状や健康状態について主治医と連絡を『とっている』（「とっている」と「時々とっている」の合計）は 95.5%で、前回調査に比べて 5.0 ポイント増加しています。



〔2〕医療機関(主治医)との連携

問12 あなたが医療機関(主治医)との連携が必要だと思うケースに遭遇した場合、実際に医療機関(主治医)と連携していますか。(1つだけ)

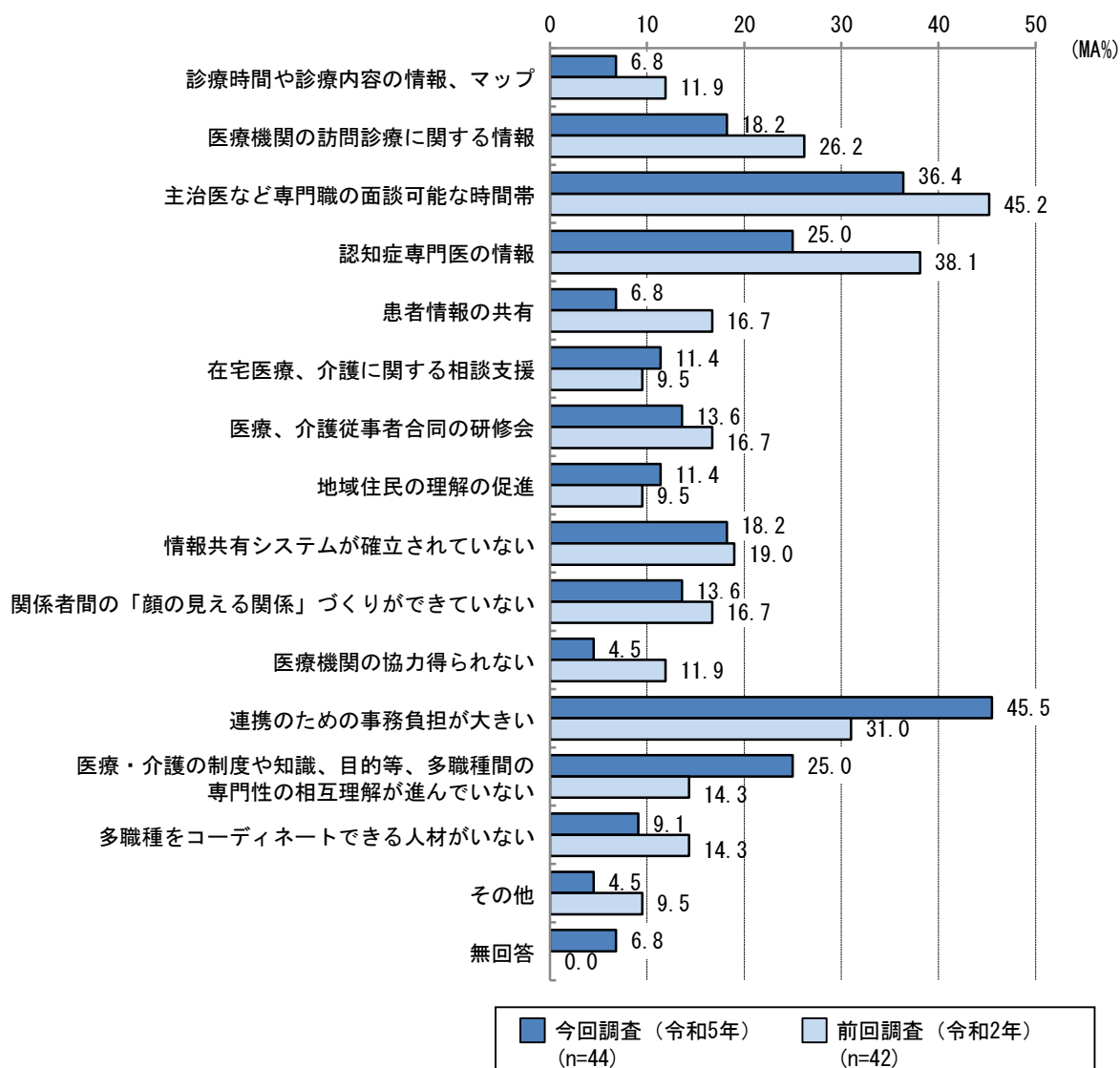
医療機関（主治医）との連携状況について、『連携がとれている』（「連携がとれている」と「概ね連携がとれている」の合計）は 95.4%で、前回調査に比べて 4.9 ポイント増加しています。



〔3〕医療と介護の連携における課題、不足していること

問13 あなたが医療と介護の連携で課題や不足していると感じることは何ですか。
(いくつでも)

医療と介護の連携で課題、不足していると感じることは、「連携のための事務負担が大きい」が 45.5%と最も多く、前回調査に比べて 14.5 ポイント増加しています。次いで、「主治医など専門職の面談可能な時間帯」が 36.4%となっています。



<その他の回答>

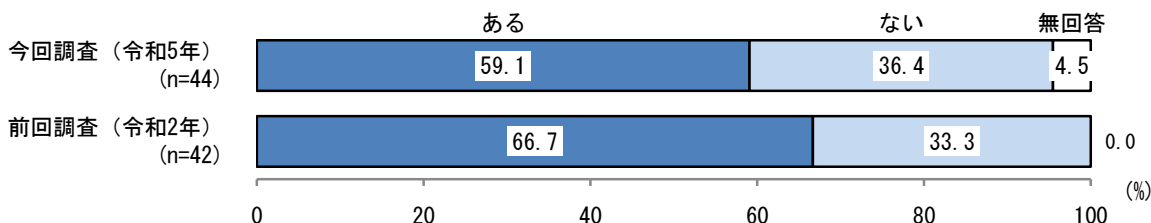
- ・窓口担当の入れ替わりが多い。
- ・病院から施設入所の手間が多いのに加算が少ない。

6. 地域における支援について

〔1〕困難事例の担当経験の有無

問14 業務を行う上で困難事例はありましたか。(1つだけ)

困難事例の担当経験の有無について、「ある」は59.1%となっています。

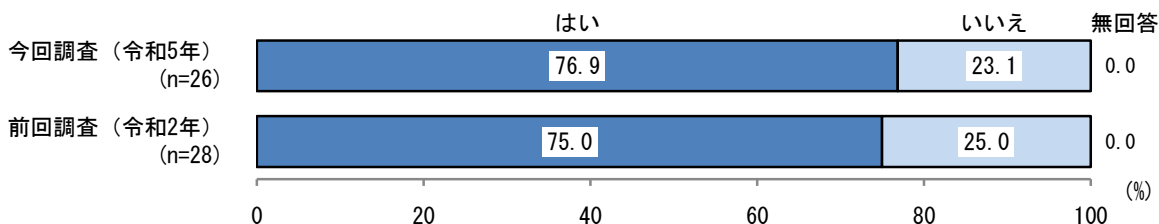


〔2〕地域包括支援センターへの相談経験の有無

問14で「1」(ある)と回答した方のみ回答

問15 地域包括支援センターに相談しましたか。(1つだけ)

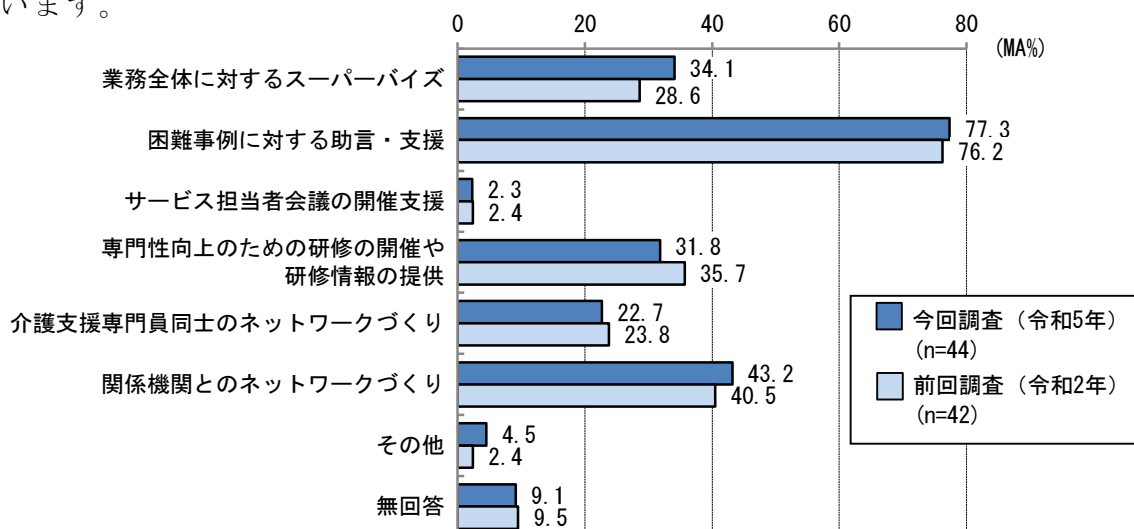
困難事例の担当経験が「ある」方で、地域包括支援センターに「相談した(はい)」は76.9%となっています。



〔3〕地域包括支援センターに期待する役割

問16 地域包括支援センターにどのような役割を期待していますか。(いくつでも)

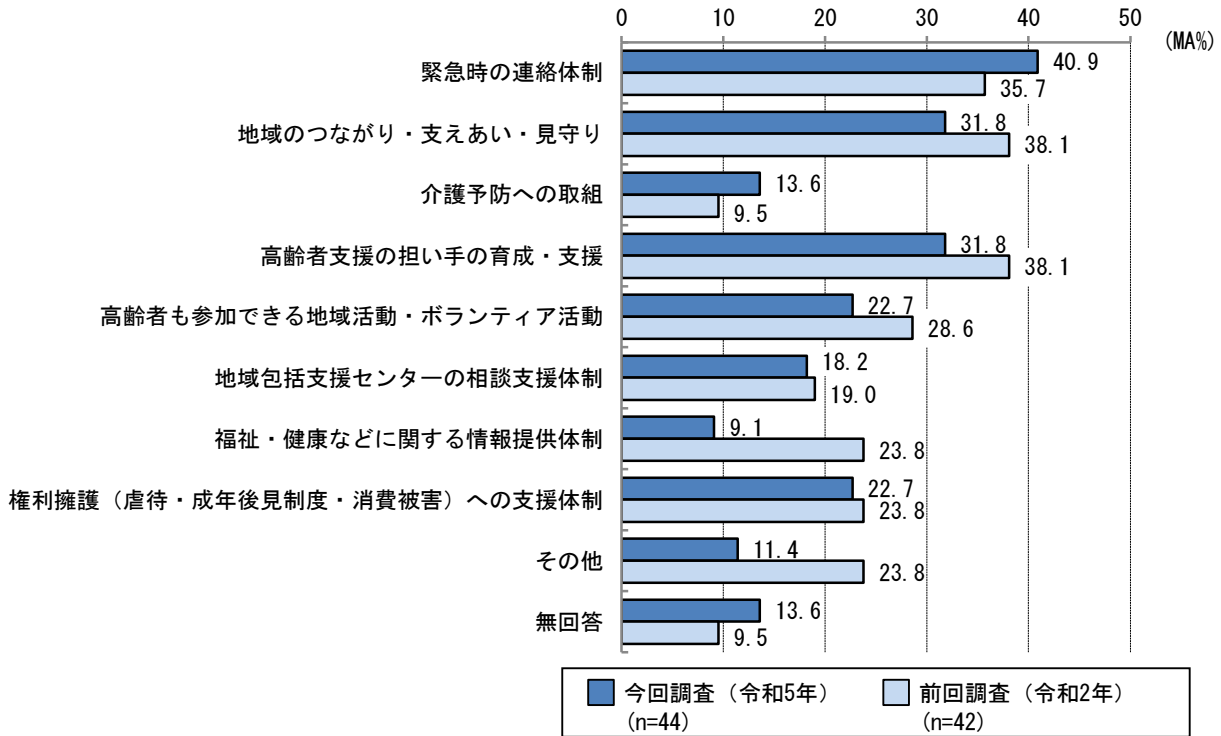
地域包括支援センターに期待する役割は、「困難事例に対する助言・支援」が77.3%と最も多く、次いで、「関係機関とのネットワークづくり」が43.2%となっています。



[4]不足していると感じる支援

問17 介護支援専門員の立場からみて、泉大津市の高齢者(特に独居高齢者)に対する支援について、不足していると感じているものは何ですか。(いくつでも)

高齢者に対する支援で不足していると感じるものは、「緊急時の連絡体制」が40.9%と最も多く、前回調査に比べて5.2ポイント増加しています。次いで、「地域のつながり・支えあい・見守り」、「高齢者支援の担い手の育成・支援」がそれぞれ31.8%となっています。



<その他の回答>

- ・ 2号被保険者の通いやすいデイサービス等
- ・ 高齢者が参加できる体操などへの送迎があればもっと参加しやすい
- ・ 権利擁護につながるまでの支援のサービスがない
- ・ 身寄りのない方が永眠された後の支援体制

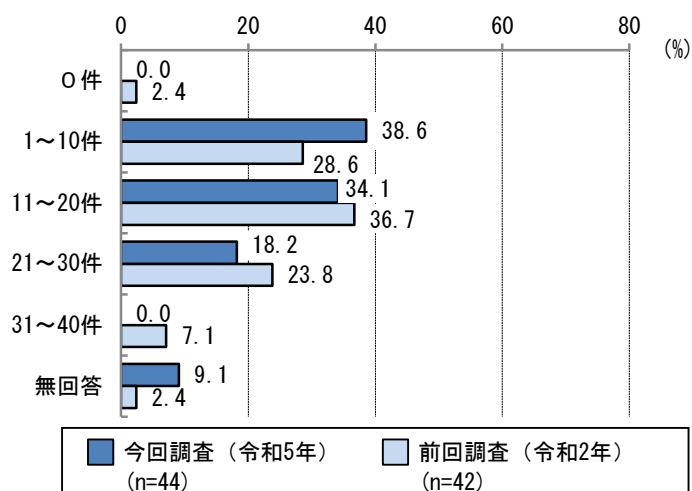
7. 認知症について

〔1〕認知症の利用者

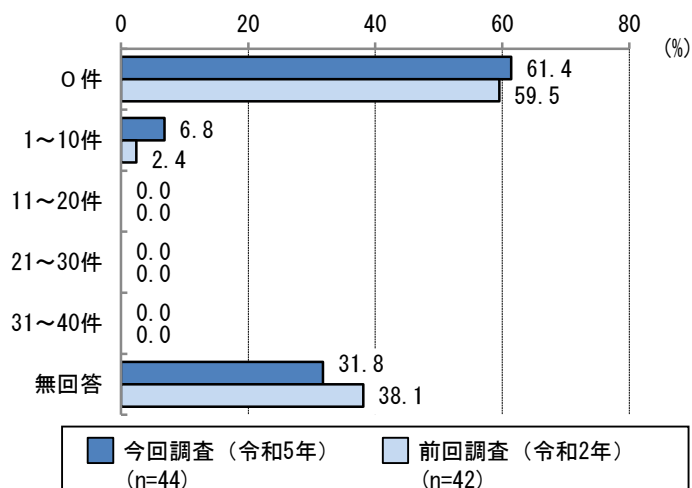
問18 あなたが市内で担当している利用者の中、認知症の方(疑い含む)は何人いますか。

担当している利用者で認知症の方は、「1～10件」が38.6%と最も多く、次いで、「11～20件」が34.1%となっています。また、そのうち若年性認知症の方は「0件」が61.4%、「1～10件」が6.8%となっています。

【認知症の利用者】



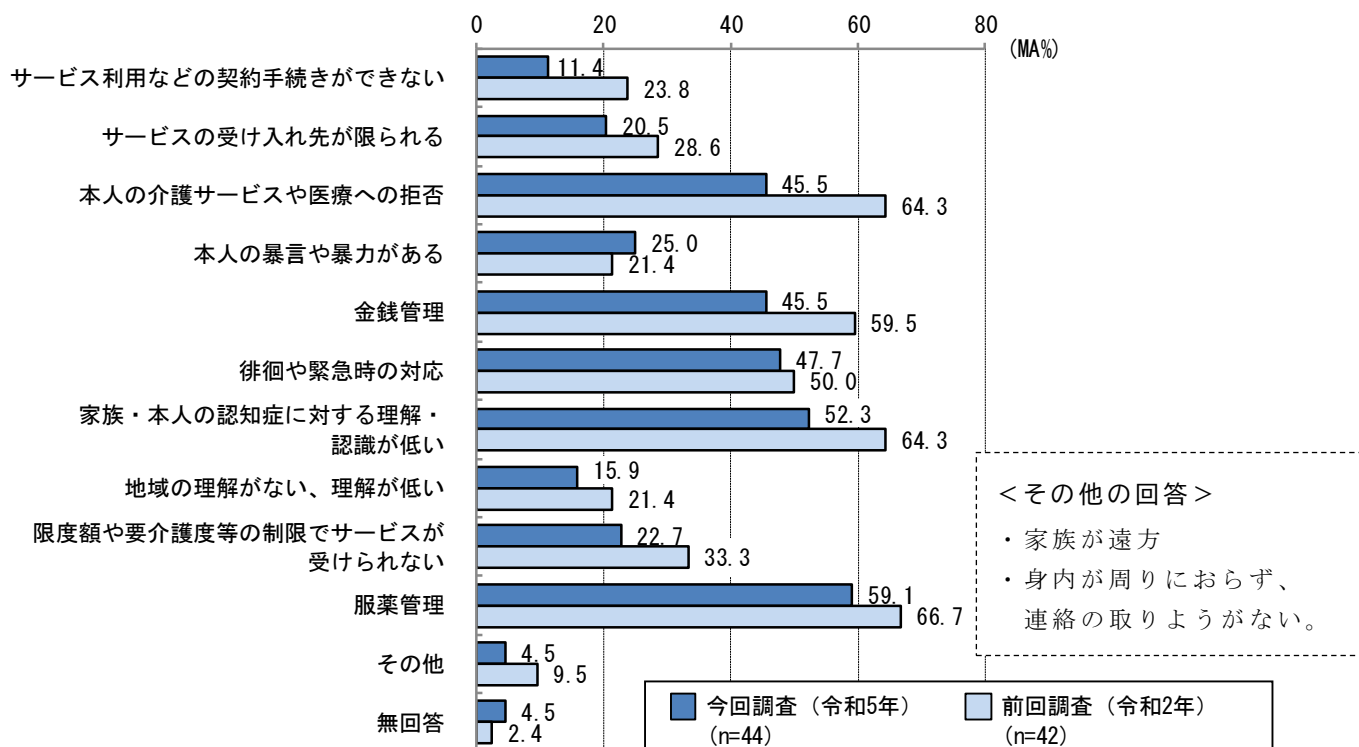
【若年性認知症】



〔2〕認知症の方への支援で困っていること

問19 認知症の方への支援において困っていること(困ったこと)はありますか。(いくつでも)

認知症の方への支援において困っていることは、「服薬管理」が59.1%と最も多く、次いで、「家族・本人の認知症に対する理解・認識が低い」が52.3%、「徘徊や緊急時の対応」が47.7%となっています。



〔3〕若年性認知症の方への支援で困っていること(自由記述)

問19-1 特に若年性認知症の方への支援において困っていること(困ったこと)はありますか。

10件のご意見がありました。主な内容は下記のとおりです。

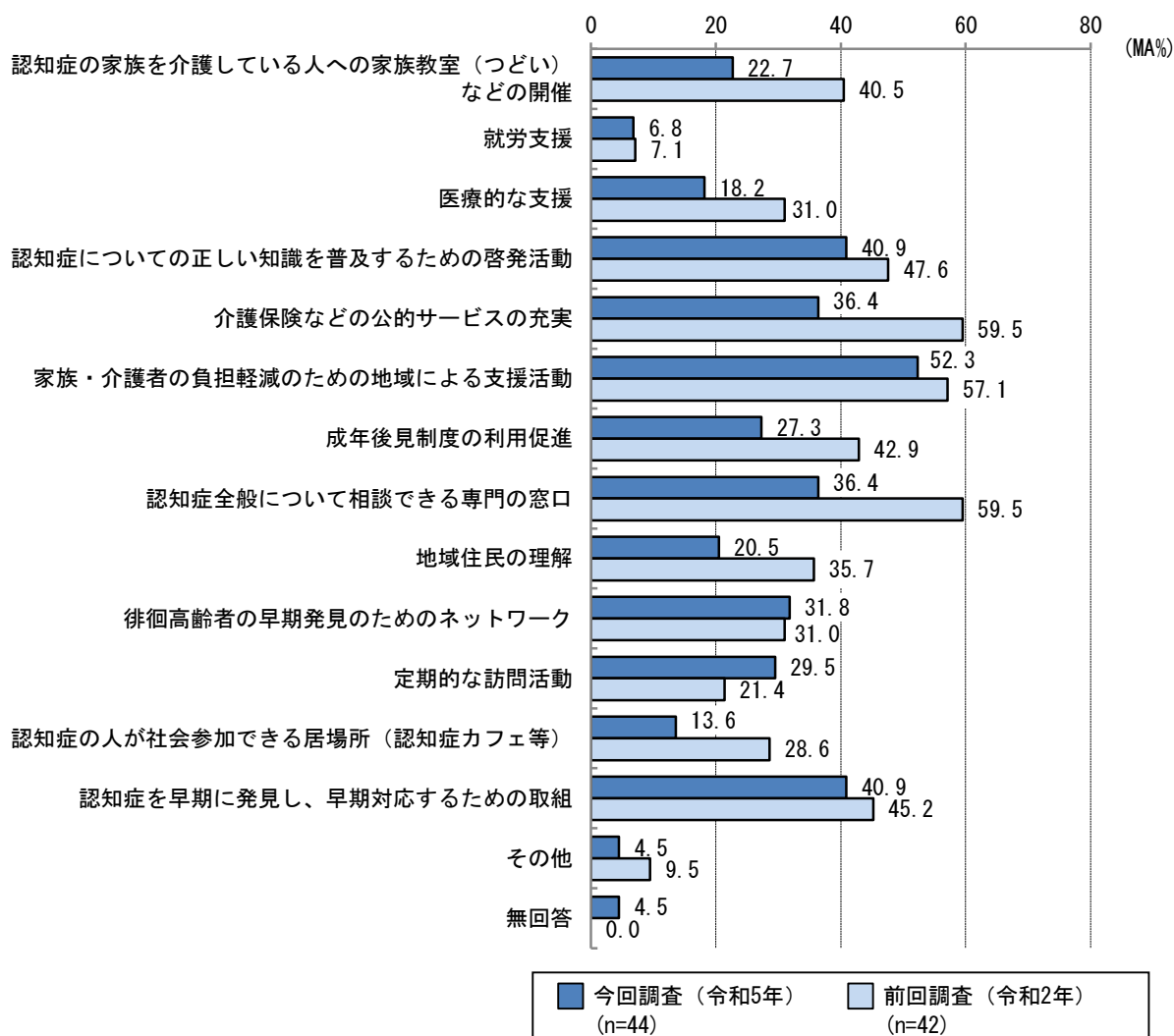
ご意見内容
・サービスをつなげるにも、高齢者のサービスと一緒にするのは難しい
・利用できるサービスに限りがある。「みなし2号」の人は他法優先となり、障がいサービスを組み込む必要もあるが、サービスのことがわかりにくい
・家族は通所系サービスの利用を望んでも、利用されている方々が高齢者ばかりであるためなかなか本人が「行こう」という気持ちにならない
・介護施設は高齢者がほとんどなので、どちらも違和感を感じる場合が多いように思う。また就労支援等、ケアマネ自体もノウハウを持っていない
・地域、家族等周囲の方の認知症に対しての理解が乏しい
・認知症、介護ワードを使いづらい
・認知症の進行がはやく、精神科領域の症状がみられた時に、介護福祉の職員のみでは対応が難しいことがある

II. 調査結果 2. ケアマネジャーに関する調査

[4] 認知症の方への支援で必要なこと

問20 認知症の方への支援で必要なことはどのようなことだと考えますか。
(いくつでも)

認知症の方への支援で必要なことは、「家族・介護者の負担軽減のための地域による支援活動」が52.3%と最も多く、次いで、「認知症についての正しい知識を普及するための啓発活動」、「認知症を早期に発見し、早期対応するための取組」がそれぞれ40.9%となっています。



<その他の回答>

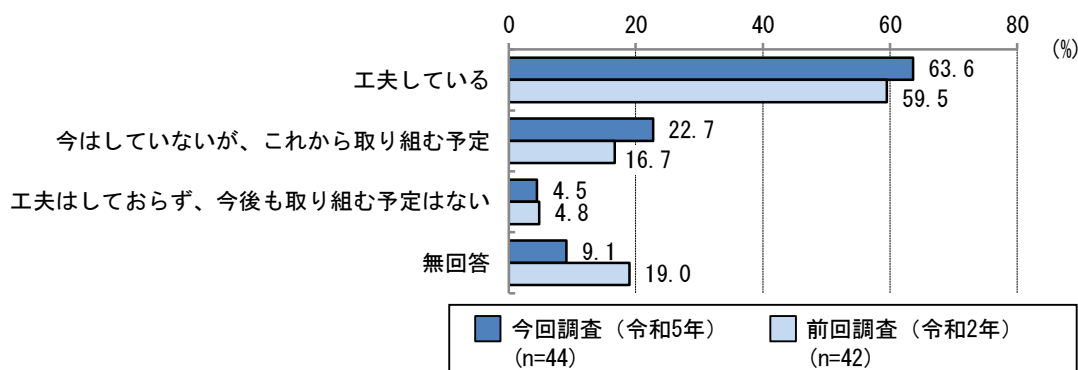
- ・ 家族の理解
- ・ 要介護 1、2の方が毎日デイサービスを利用すると単位数が足りず、結局入所になってしまう。認知症高齢者の日常生活自立度でⅡaがつくと「+〇〇単位」とか、市独自の対策ができないか

8. 自立支援・重度化防止について

〔1〕介護予防・重度化防止のケアプランの工夫

問21 介護予防・重度化防止のケアプランの工夫をしていますか。(1つだけ)

介護予防・重度化防止のケアプランを「工夫している」は63.6%、「今はしていないが、これから取り組む予定」が22.7%となっています。



問21で「1」、「2」と回答した方のみ回答

問22 工夫している、または工夫予定の内容は何ですか。

35件（のべ41件）のご意見がありました。主な内容は下記のとおりです。

ご意見内容	件数
今できることを維持し、自立生活を続けていけるよう支援	9件
デイサービスなどによるリハビリの提案	5件
社会参加、他者交流の場の提供	4件
インフォーマルサービスの活用、介護保険によらない社会資源の活用	4件
医師や関連事業所、家族との連携	4件
不要なサービスは使わない	3件
セルフケアを活かしたプラン作成。自分で楽しんで行える重度化防止の取組	3件
訪問サービス（訪問看護、訪問リハビリ）の利用、ヘルパーとの関係づくり	2件
自分でできない家事の支援	2件
転倒やケガの防止	2件
専門セラピストの協力、前向きな話を心がける等、メンタル面のサポート	2件
その他 ・予防や重度化防止の必要性はわかっているが、介護が必要な方への対応に時間が取られる	1件

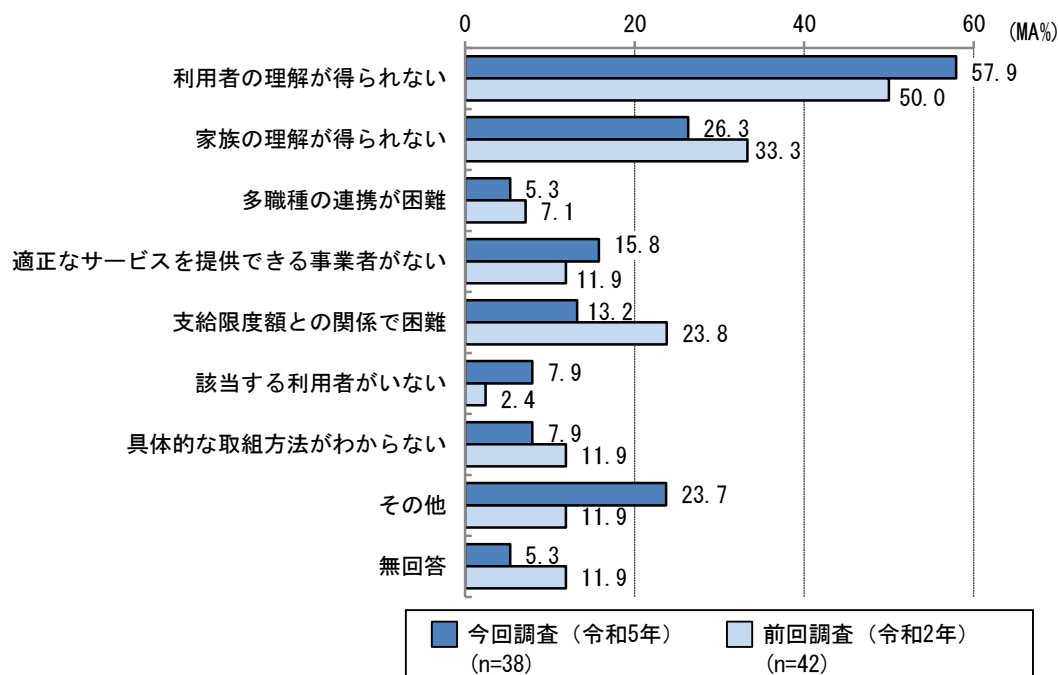
II. 調査結果 2. ケアマネジャーに関する調査

〔2〕取組に対する課題

問21で「1」、「2」と回答した方のみ回答

問23 取組に対する課題は次のうちどれですか。(いくつでも)

取組に対する課題は、「利用者の理解が得られない」が57.9%と最も多く、次いで、「家族の理解が得られない」が26.3%となっています。



<その他の回答>

- ・転倒誤嚥等で入院するとADLが下がって後戻りしてしまい、本人は在宅と以为っていても身体がついてこなくてやる気をなくしてしまう。頑張れなくなってしまう

〔3〕工夫していない理由(自由記述)

問21で「3」と回答した方のみ回答

問24 「工夫はしておらず、今後も取り組む予定はない」理由を記入してください。

2件のご意見がありました。主な内容は下記のとおりです。

ご意見内容

現状は今の職務にて精一杯。これ以上の負担は自身の精神が持たない

9. 新型コロナウイルス感染症について

〔1〕新型コロナウイルス感染症の影響（自由記述）

問25 コロナ禍において何か変化したことや対策されたこと、ご苦労されたこと等、また、利用者から聞いている困りごと等がありましたら、ご自由にお書きください。

31件（のべ44件）のご意見がありました。主な内容は下記のとおりです。

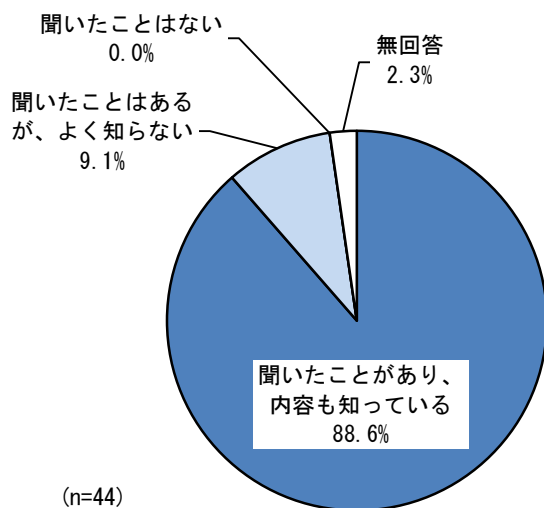
ご意見内容	件数
■利用者や家族に関すること	
サービス利用ができず家族の負担増、他に使えるサービス・支援がなかった	7件
独居の方の支援が不足し、ケアマネジャーが対応した	5件
外出制限等により利用者の身体機能の低下や認知症状の進行がみられた	5件
外出や交流の機会が減り、利用者の楽しみがなくなった	2件
利用者感染時の入院対応や、家族への報告などの対応が大変だった	2件
施設や病院での面会ができず、本人も家族も不安な思いをした	2件
■ケアマネジャー業務に関すること	
担当者会議やカンファレンス、病院との連携が取りにくくなった	6件
訪問や面会ができず、利用者の様子は電話や書面で聞き取りを行った	5件
利用者や家族の理解不足への説明、対応など	3件
サービス停止の際、ケアマネジャーが通院や食事、内服等の介助を求められた	1件
■その他	
施設においては感染対策を実施し、感染者への対応方法を職員に周知徹底した	1件
食事面で宅配弁当利用。弁当箱のゴミ整理	1件
夜通しミシンでマスクを作り続け、行政からのアクションの無さに正直苛立っていた	1件
マスクをしていることでコミュニケーションが取りづらいと聞いている	1件
感染された方に対して利用者が偏見の目で見ると聞いている	1件
特になし	1件

10. ヤングケアラーについて

[1]「ヤングケアラー」の認知(新規設問)

問26 「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありますか。(1つだけ)

「ヤングケアラー」という言葉については、「聞いたことがあり、内容も知っている」が88.6%となっています。

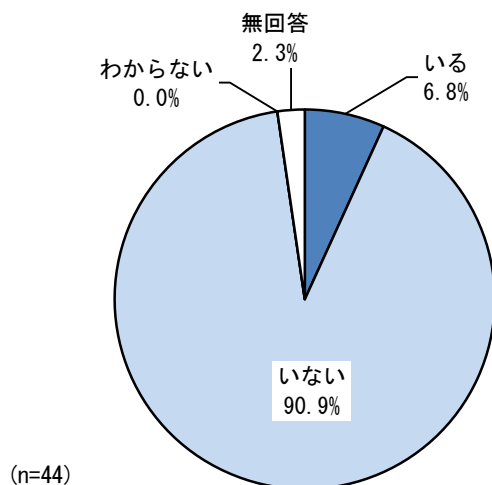


[2]「ヤングケアラー」と思われる子どもの有無(新規設問)

問27 あなたが担当された利用者の家庭に「ヤングケアラー」と思われる子どもはいますか。(1つだけ)

※ここでの「子ども」は児童福祉法で定義される18歳未満の児童を指します。

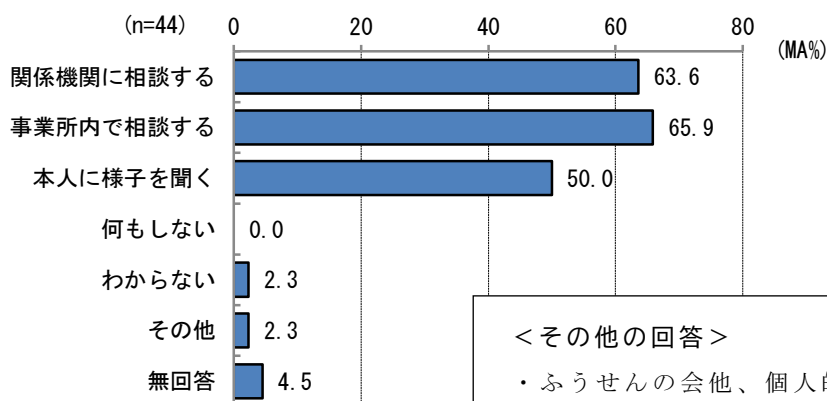
担当する利用者の家庭に「ヤングケアラー」と思われる子どもが「いる」は6.8%となっています。



[3]「ヤングケアラー」と思われる子どもへの対応(新規設問)

問28 「ヤングケアラー」と思われる子どもがいた場合は、どのような対応をしますか。(いくつでも)

「ヤングケアラー」と思われる子どもがいた場合の対応については、「事業所内で相談する」が65.9%と最も多く、次いで、「関係機関に相談する」が63.6%、「本人に様子を聞く」が50.0%となっています。

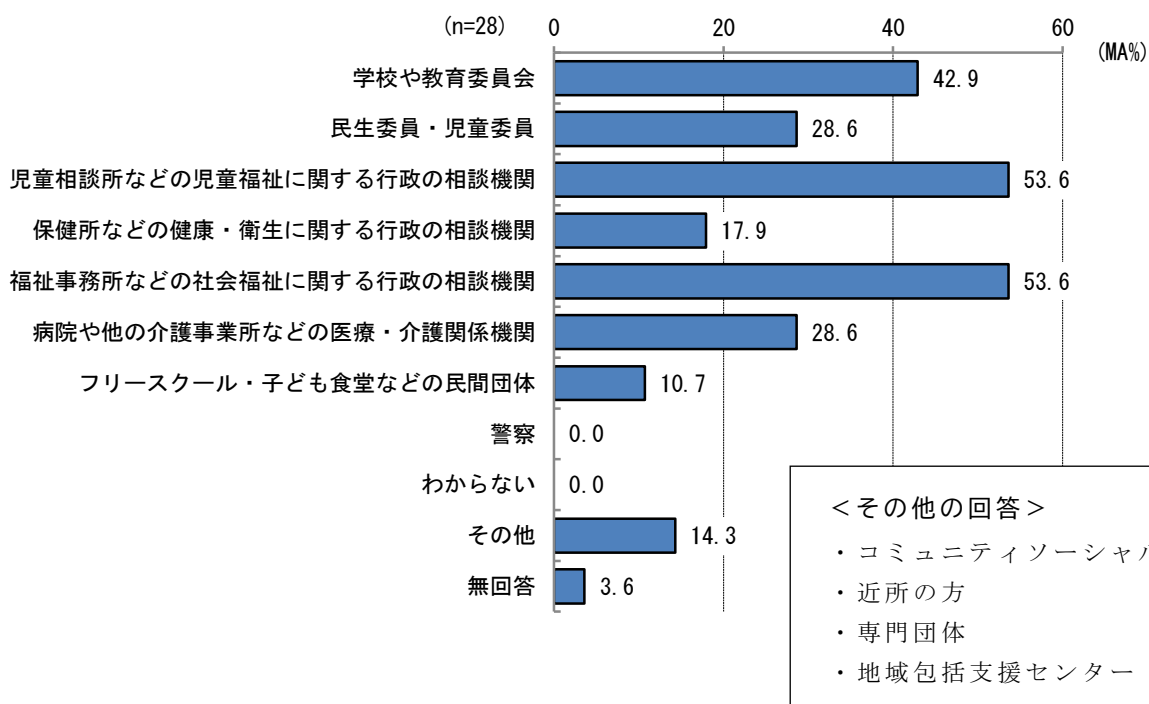


[4]「ヤングケアラー」についての相談先(新規設問)

問28.で「1. 関係機関に相談する」と回答した方のみ回答

問29 どのような機関に相談しようと思いますか。(いくつでも)

「関係機関に相談する」場合の相談先については、「児童相談所などの児童福祉に関する行政の相談機関」、「福祉事務所などの社会福祉に関する行政の相談機関」がそれぞれ53.6%と最も多く、次いで、「学校や教育委員会」が42.9%となっています。



調査票

泉大津市 介護人材実態調査 事業所票 【訪問系】

※ **令和5年5月1日現在の状況**について、ご回答ください。

問1 該当するサービス種別（介護予防を含む）を、ご回答ください。

※ 本調査票の送付先（宛名となっている事業所）で行うサービスについて、ご回答ください。（1つに○）

1 訪問介護
2 訪問入浴
3 訪問看護

問2 貴事業所（問1で○をつけたサービス種別の事業所）に所属する介護職員について、お伺いします。

※ ここでの「介護職員」は、賃金の支払いを受けている方に限ります。（ボランティアの方は含みません）

※ また、「正規職員」とは期限の定めのない雇用契約による職員、「非正規職員」とは期限の定めのある有期雇用契約による職員を指します。

問2-1 介護職員の総数を、ご記入ください。（数値を記入）

正規職員	[] 人	非正規職員	[] 人
------	------------------	-------	------------------

問2-2 貴事業所の開設時期について、ご記入ください。（数値を記入）

開設時期	西暦 [] 年 [] 月
------	--------------------------------------

**問2-3 令和5年1月1日時点で、開設から1年以上を経過している事業所にお伺いします。
過去1年間（令和4年1月1日～令和4年12月31日）の介護職員の採用者数と離職者数を、
ご記入ください。**

採用者数	[] 人	離職者数	[] 人
------	------------------	------	------------------

問2-4 問2-3の採用者・離職者について、正規・非正規の別・年齢別をご記入ください。（数値を記入）

年齢 (採用、離職当時)	採用者数		離職者数	
	正規職員	非正規職員	正規職員	非正規職員
20歳未満	[] 人	[] 人	[] 人	[] 人
20～29歳	[] 人	[] 人	[] 人	[] 人
30～39歳	[] 人	[] 人	[] 人	[] 人
40～49歳	[] 人	[] 人	[] 人	[] 人
50～59歳	[] 人	[] 人	[] 人	[] 人
60～69歳	[] 人	[] 人	[] 人	[] 人
70～79歳	[] 人	[] 人	[] 人	[] 人
年齢不明	[] 人	[] 人	[] 人	[] 人

サービス利用者数について

問3 貴事業所において、サービスを利用されている方について、ご記入ください。

○ 利用者数は令和5年4月1日から4月30日までの利用者について、実人数でご記入ください。

利用者実人数※ () 人	※1人が4月中に2回利用しても1人とカウントする
---------------	--------------------------

問4 利用者数について、居住地ごとの人数をご記入ください。

1 市内	() 人	2 市外	() 人
------	-------	------	-------

現在提供している及び今後の事業展開について

問5 貴事業所において、今後、泉大津市において、新規に展開したい（新規に事業実施に取り組みたい）と考えている介護サービスはありますか。該当する番号を次ページから選び記入してください。（いくつでも）

1 今後新規に展開したい介護サービス	() ※P3の表をご覧ください () 内に番号をご記入ください。
2 介護保険外のサービスに関して、現在行っていることはありますか。自由にご記入ください。	
3 介護保険外のサービスに関して、新規で考えていることはありますか。自由にご記入ください。	

新規に展開したいサービス

介護予防・日常生活支援総合事業

- | | | |
|------------------------------|------------------------------|---------------|
| 1. 介護予防訪問介護
4. 訪問型サービス C* | 2. 介護予防通所介護
5. 通所型サービス C* | 3. 訪問型サービス A* |
|------------------------------|------------------------------|---------------|

介護サービス・介護予防サービス

- | | | |
|---|--|--|
| 6. 訪問介護
9. 訪問入浴介護
12. 通所リハビリテーション
15. 特定福祉用具販売
18. 介護予防訪問リハビリテーション
21. 介護予防通所リハビリテーション
24. 介護予防特定福祉用具販売 | 7. 訪問看護
10. 居宅療養管理指導
13. 短期入所生活介護
16. 福祉用具貸与
19. 介護予防訪問入浴介護
22. 介護予防短期入所生活介護
25. 介護予防福祉用具貸与 | 8. 訪問リハビリテーション
11. 通所介護
14. 短期入所療養介護
17. 介護予防訪問看護
20. 介護予防居宅療養管理指導
23. 介護予防短期入所療養介護
26. 居宅介護支援 |
| 27. 特定施設入居者生活介護
29. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護
31. 認知症対応型通所介護
33. 小規模多機能型居宅介護
35. 認知症対応型共同生活介護
37. 地域密着型特定施設入居者生活介護
39. 看護小規模多機能型居宅介護
41. 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）
43. 自費サービス（保険外サービス） | 28. 介護予防特定施設入居者生活介護
30. 夜間対応型訪問介護
32. 介護予防認知症対応型通所介護
34. 介護予防小規模多機能型居宅介護
36. 介護予防認知症対応型共同生活介護
38. 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護
40. 地域密着型通所介護
42. 介護老人保健施設（老人保健施設） | |

※

種別	訪問型サービス A (緩和した基準によるサービス)	訪問型サービス C (短期集中予防サービス)	通所型サービス C (短期集中予防サービス)
内容	生活援助（掃除、洗濯、料理、買い物代行等）	運動器、栄養、口腔、認知機能向上等の生活機能を改善するためのプログラム（2時間）	運動器、栄養、口腔、認知機能向上等の生活機能を改善するためのプログラム（2時間）
対象者	要支援認定を受けた方、基本チェックリスト該当者（事業対象者）で生活援助のみを必要とする方	<ul style="list-style-type: none"> ・ADL や IADL の改善に向けた支援を必要とする方 ・保健、医療の専門職による集中的な視点で改善の見込みがあり、改善の意思が明確な方 ・閉じこもり等の心身の状況のため通所への参加が困難な方 ・通所型サービス C の利用者のうち、自宅内での生活動作や環境に不安を感じている方 	以下すべてに該当する方 <ul style="list-style-type: none"> ・ADL や IADL の改善に向けた支援が必要な方 ・保健、医療の専門職による集中的な支援で改善の見込みがあり、改善の意思が明確な方
例	家事エンジャー	らくらく訪問	元氣塾

介護人材について

問6 貴事業所配置している職種は、次の内どれですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|----------------|---------------|---------------|
| 1. 看護師 | 2. 訪問介護員 | 3. 介護福祉士 |
| 4. 介護福祉士以外の介護職 | 5. 社会福祉士 | 6. 保健師 |
| 7. PT (理学療法士) | 8. OT (作業療法士) | 9. ST (言語聴覚士) |
| 10. その他 () | | |

問7 問6で選択した人材の過不足状況はどうか。当てはまる項目の()に、問6で選択した番号を記入してください。

- | | | |
|-------------|-----------|--------------|
| 1. 適当 () | 2. 過剰 () | |
| 3. やや不足 () | 4. 不足 () | 5. 大いに不足 () |

問7で「3」、「4」、「5」と回答した方は問8をお答えください。

問8 不足している理由にあてはまる項目の()に問7で「3」、「4」、「5」に記入した番号を記入してください。

- | | |
|-------------------|-------------------------|
| 1. 離職率が高い () | 2. 募集しても適正な人材がない () |
| 3. 募集しても応募がない () | |
| 4. その他* () | *その他の理由を下記【 】内に記入してください |
| その他の理由 | 【 】 |

運営状況について

問 9 令和4年度の貴事業所の収支状況について、お答えください。(1つに○)

- | | | |
|----------|------------|------------|
| 1. 大幅な黒字 | 2. やや黒字である | 3. ほぼ収支が均衡 |
| 4. やや赤字 | 5. 大幅な赤字 | |

問 10 問9の収支は、当初見込んだものと比較してどのような状況ですか。(1つに○)

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. 大幅に上回った⇒問 11 へ | 2. やや上回った ⇒問 11 へ |
| 3. ほぼ見込みどおりである | |
| 4. やや下回った ⇒問 12 へ | 5. 大幅に下回った⇒問 12 へ |

問 10 で「1」、「2」と回答した方は問 11 をお答えください。

問 11 当初見込みを上回った理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------------------|-------------------------|
| 1. 利用者数が見込みを上回ったため | 2. 利用者一人当たりのサービス量が増えたため |
| 3. 人件費や事務費などの事業支出を低く抑えることができたため | |
| 4. 介護報酬以外の事業収入が得られたため | 5. 介護報酬が改定されたため |
| 6. その他 () | |

問 10 で「4」、「5」と回答した方は問 12 をお答えください。

問 12 当初見込みを下回った理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------------------|-------------------------|
| 1. 利用者数が見込みを下回ったため | 2. 利用者一人当たりのサービス量が減ったため |
| 3. 人件費や事務費などの事業支出が見込みより多かったため | |
| 4. 介護報酬が改定されたため | 5. その他 () |

介護予防・重度化防止について

問 13 介護予防・重度化防止のケアプランの工夫をしていますか。(1つに○)

1. 工夫している ⇒問 14、問 15 へ
2. 今はしていないが、これから取り組む予定 ⇒問 14、問 15 へ
3. 工夫はしておらず、今後も取り組む予定はない ⇒問 16 へ

問 13 で「1」、「2」と回答した方は問 14、問 15 をお答えください。

「3」と回答した方は問 16 にお進みください。

問 14 工夫している、または工夫予定の内容は何ですか。

問 15 取組に対する課題は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|-------------------|-------------------|--------------|
| 1. 利用者の理解が得られない | 2. 家族の理解が得られない | 3. 多職種の連携が困難 |
| 4. サービスの提供体制が整わない | 5. 具体的な取組方法がわからない | |
| 6. 取組の評価が出しにくい | 7. その他 (|) |

問 16 「工夫はしておらず、今後も取り組み予定はない」理由を記入してください。

その他

問 17 貴事業所では、虐待防止対策についてどのような取り組みをしていますか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------------------|--------------------------|
| 1. 虐待防止責任者の設置 | 2. 虐待防止委員会の設置 |
| 3. 虐待防止委員会の定期的開催及びその結果の従業員への周知徹底 | |
| 4. 虐待防止に係る外部研修への参加 | 5. 事業所内で虐待防止に係る研修・説明会の開催 |
| 6. 虐待防止マニュアルの作成 | 7. 虐待防止連絡体制の整備 |
| 8. 職員のメンタルヘルスのための研修を実施 | 9. 職員にストレスチェックを実施 |
| 10. その他 () | |
| 11. 特になし | |

問 18 貴事業所では、災害発生時から業務復旧までの計画等、災害時の対策をされていますか。
(あてはまるものすべてに○)

- | |
|---|
| 1. 震災時の被害想定を把握している |
| 2. 風水害時の被害想定を把握している |
| 3. 震災時の事業継続計画（BCP）を策定している |
| 4. 風水害時の事業継続計画（BCP）を策定している |
| 5. 震災時の地震防災対策マニュアルを策定している |
| 6. 非常災害対策計画を策定している |
| 7. 水防法に基づく避難確保計画を策定している |
| 8. 津波被害を想定した災害対策マニュアルを策定している |
| 9. 災害時の「共助」として、施設間の応援体制整備のための施設間応援協定を締結している |
| 10. 計画・マニュアル等の策定作業を進めている |
| 11. その他 () |
| 12. 特に整備していない
その理由 |
| [] |

問 19 貴事業所では、感染症対策についてどのような取り組みをしていますか。
(あてはまるものすべてに○)

- | |
|---------------------------------------|
| 1. 感染症対応マニュアルの作成 |
| 2. 職員に対する感染症対策に関する研修等の開催 |
| 3. 感染を予防するための備品（使い捨て手袋、マスク、手指消毒薬等）を常備 |
| 4. 職員に対する手洗い・うがいの励行 |
| 5. 職員・関係機関等への連絡体制の整備 |
| 6. 利用者及び面会者への注意喚起 |
| 7. その他 () |
| 8. 特に整備していない |

問 20 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響についておうかがいします。

コロナ禍において、事業所の運営（収支に関することを含む）やサービスの提供に何か変化したことや対策されたこと、ご苦労されたこと等、また、サービス利用者から聞いている困りごと等がありましたら、ご自由にお書きください。

--

○本調査の記入者についてご記入ください。

事業所名	
事業所番号	
回答の記入者	
連絡先	

**調査は以上です。ご協力ありがとうございました。
ご回答いただいた調査票は、令和5年6月22日（木）までに、
同封の返信用封筒に入れ、そのまま投函してください。**

泉大津市 介護人材実態調査 事業所票 【施設系・通所系】

※ **令和5年5月1日現在の状況**について、ご回答ください。

問1 該当するサービス種別（介護予防を含む）を、ご回答ください。

※ 本調査票の送付先（宛名となっている事業所等）で行うサービスについて、ご回答ください。（1つに○）

1	施設・居住系サービス
	（特別養護老人ホーム（地域密着型含む）、介護老人保健施設、ショートステイ、グループホーム、 特定施設、住宅型有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅、軽費老人ホーム）
2	通所系サービス
	（通所介護（地域密着型含む）、通所リハビリテーション、通所型サービス（総合事業））

問2 貴事業所等（問1で○をつけたサービス種別の事業所等）に所属する介護職員について、お伺いします。

※ ここでの「介護職員」は、賃金の支払いを受けている方に限ります。（ボランティアの方は含みません）

※ また、「正規職員」とは期限の定めのない雇用契約による職員、「非正規職員」とは期限の定めのある有期雇用契約による職員を指します。

問2-1 介護職員の総数を、ご記入ください。（数値を記入）

正規職員	〔 〕 人	非正規職員	〔 〕 人
------	------------	-------	------------

問2-2 貴事業所等の開設時期について、ご記入ください。（数値を記入）

開設時期	西暦	〔 〕 年	〔 〕 月
------	----	------------	------------

問2-3 令和5年1月1日時点で、開設から1年以上を経過している事業所等にお伺いします。

**過去1年間（令和4年1月1日～令和4年12月31日）の介護職員の採用者数と離職者数を、
ご記入ください。**

採用者数	〔 〕 人	離職者数	〔 〕 人
------	------------	------	------------

問2-4 問2-3の採用者・離職者について、正規・非正規の別・年齢別をご記入ください。（数値を記入）

年齢 (採用、離職当時)	採用者数		離職者数	
	正規職員	非正規職員	正規職員	非正規職員
20歳未満	〔 〕 人	〔 〕 人	〔 〕 人	〔 〕 人
20～29歳	〔 〕 人	〔 〕 人	〔 〕 人	〔 〕 人
30～39歳	〔 〕 人	〔 〕 人	〔 〕 人	〔 〕 人
40～49歳	〔 〕 人	〔 〕 人	〔 〕 人	〔 〕 人
50～59歳	〔 〕 人	〔 〕 人	〔 〕 人	〔 〕 人
60～69歳	〔 〕 人	〔 〕 人	〔 〕 人	〔 〕 人
70～79歳	〔 〕 人	〔 〕 人	〔 〕 人	〔 〕 人
年齢不明	〔 〕 人	〔 〕 人	〔 〕 人	〔 〕 人

問3 貴事業所等に所属している介護職員全員（非常勤含む。ボランティアの方を除く）について、お答えください。

回答方法	※ 番号1つ記載				※ 数値を記入		※ 番号1つ記載			
	(1) 資格の取得、研修の修了の状況	(2) 雇用形態	(3) 性別	(4) 年齢	(5) 過去1週間の勤務時間	(6) 現在の事業所等での勤務年数	(7) 現在の事業所等に勤務する直前の職場 ※地域密着型を含む	(8) 直前の職場について		
選択肢	1. 介護福祉士（認定介護福祉士含む） 2. 介護職員実務者研修修了または（旧）介護職員基礎研修修了または（旧）ヘルパー1級 3. 介護職員初任者研修修了、または（旧）ヘルパー2級 4. 上記のいずれも該当しない	1. 正規職員（※期限の定めのない契約） 2. 非正規職員（※期限の定めのある契約）	1. 男性 2. 女性	1. 20歳未満 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代 7. 70代以上 8. 不明	※ 残業時間を含む。休憩時間は除く。	1. 1年以上 ⇒【回答終了】 2. 1年未満 ⇒【(7)へ】	1. 現在の職場が初めての勤務先⇒【回答終了】 2. 介護以外の職場 ⇒【回答終了】 3. 特養、老健、療養型・介護医療院、ショートステイ、グループホーム、特定施設 4. 訪問介護・入浴、夜間対応型 5. 小多機、看多機、定期巡回サービス 6. 通所介護、通所リハ、認知症デイ 7. 住宅型有料、サ高住（特定施設以外） 8. その他の介護サービス ⇒【「3.」～「8.」の場合は(8)へ】	1. 現在の事業所等と、同一の市区町村内 2. 現在の事業所等と、別の市区町村内	1. 現在の事業所等と、同一の法人・グループ 2. 現在の事業所等と、別の法人・グループ	
	1	1	1	3	40	時間	2	2	1	2
01						時間				
02						時間				
03						時間				
04						時間				
05						時間				
06						時間				
07						時間				
08						時間				
09						時間				
10						時間				
11						時間				
12						時間				
13						時間				
14						時間				
15						時間				
16						時間				
17						時間				
18						時間				
19						時間				
20						時間				
21						時間				
22						時間				
23						時間				
24						時間				
25						時間				
26						時間				
27						時間				
28						時間				
29						時間				
30						時間				
31						時間				
32						時間				
33						時間				
34						時間				
35						時間				
36						時間				
37						時間				
38						時間				
39						時間				
40						時間				
41						時間				
42						時間				
43						時間				
44						時間				
45						時間				
46						時間				
47						時間				
48						時間				
49						時間				
50						時間				

新規に展開したいサービス

介護予防・日常生活支援総合事業		
1. 介護予防訪問介護 4. 訪問型サービス C*	2. 介護予防通所介護 5. 通所型サービス C*	3. 訪問型サービス A*
介護サービス・介護予防サービス		
6. 訪問介護 9. 訪問入浴介護 12. 通所リハビリテーション 15. 特定福祉用具販売 18. 介護予防訪問リハビリテーション 21. 介護予防通所リハビリテーション 24. 介護予防特定福祉用具販売	7. 訪問看護 10. 居宅療養管理指導 13. 短期入所生活介護 16. 福祉用具貸与 19. 介護予防訪問入浴介護 22. 介護予防短期入所生活介護 25. 介護予防福祉用具貸与	8. 訪問リハビリテーション 11. 通所介護 14. 短期入所療養介護 17. 介護予防訪問看護 20. 介護予防居宅療養管理指導 23. 介護予防短期入所療養介護 26. 居宅介護支援
27. 特定施設入居者生活介護 29. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 31. 認知症対応型通所介護 33. 小規模多機能型居宅介護 35. 認知症対応型共同生活介護 37. 地域密着型特定施設入居者生活介護 39. 看護小規模多機能型居宅介護 41. 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム） 43. 自費サービス（保険外サービス）	28. 介護予防特定施設入居者生活介護 30. 夜間対応型訪問介護 32. 介護予防認知症対応型通所介護 34. 介護予防小規模多機能型居宅介護 36. 介護予防認知症対応型共同生活介護 38. 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 40. 地域密着型通所介護 42. 介護老人保健施設（老人保健施設）	

※

種別	訪問型サービス A (緩和した基準によるサービス)	訪問型サービス C (短期集中予防サービス)	通所型サービス C (短期集中予防サービス)
内容	生活援助（掃除、洗濯、料理、買い物代行等）	運動器、栄養、口腔、認知機能向上等の生活機能を改善するためのプログラム（2時間）	運動器、栄養、口腔、認知機能向上等の生活機能を改善するためのプログラム（2時間）
対象者	要支援認定を受けた方、基本チェックリスト該当者（事業対象者）で生活援助のみを必要とする方	<ul style="list-style-type: none"> ・ADL や IADL の改善に向けた支援を必要とする方 ・保健、医療の専門職による集中的な視点で改善の見込みがあり、改善の意思が明確な方 ・閉じこもり等の心身の状況のため通所への参加が困難な方 ・通所型サービス C の利用者のうち、自宅内での生活動作や環境に不安を感じている方 	以下すべてに該当する方 <ul style="list-style-type: none"> ・ADL や IADL の改善に向けた支援が必要な方 ・保健、医療の専門職による集中的な支援で改善の見込みがあり、改善の意思が明確な方
例	家事エンジャー	らくらく訪問	元気塾

介護人材について

問7 貴事業所配置している職種は、次の内どれですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|----------------|----------------|----------------|
| 1. 看護師 | 2. 訪問介護員 | 3. 主任介護支援専門員 |
| 4. 介護支援専門員 | 5. 介護福祉士 | 6. 介護福祉士以外の介護職 |
| 7. 社会福祉士 | 8. 保健師 | 9. PT (理学療法士) |
| 10. OT (作業療法士) | 11. ST (言語聴覚士) | |
| 12. その他 () | | |

問8 問7で選択した人材の過不足状況はどうか。当てはまる項目の()に、問7で選択した番号を記入してください。

- | | | |
|-------------|-----------|--------------|
| 1. 適当 () | 2. 過剰 () | |
| 3. やや不足 () | 4. 不足 () | 5. 大いに不足 () |

問8で「3」、「4」、「5」と回答した方は問9をお答えください。

問9 不足している理由にあてはまる項目の()に問8で「3」、「4」、「5」に記入した番号を記入してください。

- | | |
|-------------------|-------------------------|
| 1. 離職率が高い () | 2. 募集しても適正な人材がない () |
| 3. 募集しても応募がない () | |
| 4. その他* () | *その他の理由を下記【 】内に記入してください |
| その他の理由 | 【 】 |

運営状況について

問 10 令和4年度の貴事業所の収支状況について、お答えください。(1つに○)

- | | | |
|----------|------------|------------|
| 1. 大幅な黒字 | 2. やや黒字である | 3. ほぼ収支が均衡 |
| 4. やや赤字 | 5. 大幅な赤字 | |

問 11 問 10 の収支は、当初見込んだものと比較してどのような状況ですか。(1つに○)

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1. 大幅に上回った ⇒問 11 へ | 2. やや上回った ⇒問 11 へ |
| 3. ほぼ見込みどおりである | |
| 4. やや下回った ⇒問 12 へ | 5. 大幅に下回った ⇒問 12 へ |

問 11 で「1」、「2」と回答した方は問 12 をお答えください。

問 12 当初見込みを上回った理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------------------|-------------------------|
| 1. 利用者数が見込みを上回ったため | 2. 利用者一人当たりのサービス量が増えたため |
| 3. 人件費や事務費などの事業支出を低く抑えることができたため | |
| 4. 介護報酬以外の事業収入が得られたため | 5. 介護報酬が改定されたため |
| 6. その他 () | |

問 11 で「4」、「5」と回答した方は問 13 をお答えください。

問 13 当初見込みを下回った理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------------------|-------------------------|
| 1. 利用者数が見込みを下回ったため | 2. 利用者一人当たりのサービス量が減ったため |
| 3. 人件費や事務費などの事業支出が見込みより多かったため | |
| 4. 介護報酬が改定されたため | 5. その他 () |

介護予防・重度化防止について

問 14 介護予防・重度化防止のケアプランの工夫をしていますか。(1つに○)

1. 工夫している ⇒問 15、問 16 へ
2. 今はしていないが、これから取り組む予定 ⇒問 15、問 16 へ
3. 工夫はしておらず、今後も取り組む予定はない ⇒問 17 へ

問 14 で「1」、「2」と回答した方は問 15、問 16 をお答えください。

「3」と回答した方は問 17 にお進みください。

問 15 工夫している、または工夫予定の内容は何ですか。

問 16 取組に対する課題は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|-------------------|-------------------|--------------|
| 1. 利用者の理解が得られない | 2. 家族の理解が得られない | 3. 多職種の連携が困難 |
| 4. サービスの提供体制が整わない | 5. 具体的な取組方法がわからない | |
| 6. 取組の評価が出しにくい | 7. その他 (|) |

問 17 「工夫はしておらず、今後も取り組み予定はない」理由を記入してください。

その他

問 18 貴事業所では、虐待防止対策についてどのような取り組みをしていますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------------------|--------------------------|
| 1. 虐待防止責任者の設置 | 2. 虐待防止委員会の設置 |
| 3. 虐待防止委員会の定期的開催及びその結果の従業員への周知徹底 | |
| 4. 虐待防止に係る外部研修への参加 | 5. 事業所内で虐待防止に係る研修・説明会の開催 |
| 6. 虐待防止マニュアルの作成 | 7. 虐待防止連絡体制の整備 |
| 8. 職員のメンタルヘルスのための研修を実施 | 9. 職員にストレスチェックを実施 |
| 10. その他 () | |
| 11. 特になし | |

問 19 貴事業所では、災害発生時から業務復旧までの計画等、災害時の対策をされていますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | |
|---|
| 1. 震災時の被害想定を把握している |
| 2. 風水害時の被害想定を把握している |
| 3. 震災時の事業継続計画（BCP）を策定している |
| 4. 風水害時の事業継続計画（BCP）を策定している |
| 5. 震災時の地震防災対策マニュアルを策定している |
| 6. 非常災害対策計画を策定している |
| 7. 水防法に基づく避難確保計画を策定している |
| 8. 津波被害を想定した災害対策マニュアルを策定している |
| 9. 災害時の「共助」として、施設間の応援体制整備のための施設間応援協定を締結している |
| 10. 計画・マニュアル等の策定作業を進めている |
| 11. その他 () |
| 12. 特に整備していない |
| その理由 |
| [] |

問 20 貴事業所では、感染症対策についてどのような取り組みをしていますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | |
|---------------------------------------|
| 1. 感染症対応マニュアルの作成 |
| 2. 職員に対する感染症対策に関する研修等の開催 |
| 3. 感染を予防するための備品（使い捨て手袋、マスク、手指消毒薬等）を常備 |
| 4. 職員に対する手洗い・うがいの励行 |
| 5. 職員・関係機関等への連絡体制の整備 |
| 6. 利用者及び面会者への注意喚起 |
| 7. その他 () |
| 8. 特に整備していない |

問 21 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響についておうかがいします。

コロナ禍において、事業所の運営（収支に関することを含む）やサービスの提供に何か変化したことや対策されたこと、ご苦労されたこと等、また、サービス利用者から聞いている困りごと等がありましたら、ご自由にお書きください。

--

○本調査の記入者についてご記入ください。

事業所名	
事業所番号	
回答の記入者	
連絡先	

**調査は以上です。ご協力ありがとうございました。
ご回答いただいた調査票は、令和5年6月22日（木）までに、
同封の返信用封筒に入れ、そのまま投函してください。**

泉大津市 居所変更実態調査 調査票 【施設・居住系】

※ 令和5年5月1日現在の状況について、ご回答ください。

問1 該当するサービス種別を、ご回答ください。(1つに○)

1 住宅型有料老人ホーム（特定施設を除く）	2 軽費老人ホーム（特定施設除く）
3 サービス付き高齢者向け住宅（特定施設除く）	4 グループホーム
5 特定施設	6 介護老人保健施設
7 特別養護老人ホーム	8 地域密着型特別養護老人ホーム

※ 本調査では、以上のサービス種別をまとめて「施設等」と表記します。

問2 貴施設等の概要について、以下にご記入ください。

1 施設等の名称	[]
2 定員数など	[] [人・戸・室] ※該当する単位に○
3 入所・入居者数	[] 人
4 (貴施設等の) 待機者数	[] 人
5 特別養護老人ホームの待機者数(申込者数)	[] 人 ※特養・地域密着型特養は回答不要

※ 「2 定員数など」は、サービス付き高齢者向け住宅の場合は「住宅戸数」、住宅型有料老人ホーム・軽費老人ホームの場合は「居室数」、その他の施設等の場合は「定員数」をご回答ください。

※ 4と5は、該当者がいない場合は「0」を、不明の場合は「-」を記載してください。

問3 現在の入所・入居者の要支援・要介護度について、ご記入ください。(数値を記入)

※ ここでご記入いただいた合計人数と、問2でご記入いただいた「3 入所・入居者数」が一致することをご確認ください。

自立	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請中・不明
[]人	[]人	[]人	[]人	[]人	[]人	[]人	[]人	[]人

問4 以下の医療処置を受けている人数について、ご記入ください。(数値を記入)

1 点滴の管理	[] 人	2 中心静脈栄養	[] 人
3 透析	[] 人	4 ストーマの処置	[] 人
5 酸素療法	[] 人	6 レスピレーター	[] 人
7 気管切開の処置	[] 人	8 疼痛の看護	[] 人
9 経管栄養	[] 人	10 モニター測定	[] 人
11 褥瘡の処置	[] 人	12 カテーテル	[] 人
13 喀痰吸引	[] 人	14 インスリン注射	[] 人

ここからは、過去1年間の新規の入所・入居者についてお伺いします。

問5 過去1年間（令和4年1月1日～令和4年12月31日）に、貴施設等に新規で入所・入居した人の人数をご記入ください。

※ 貴施設等に入所・入居している方で、一時的な入院等で貴施設等に戻った方は含めないでください。

新規の入所・入居者数（合計）	[] 人★
----------------	-------------------

問6 問5でご記入いただいた過去1年間の新規の入所・入居者について、入所・入居する前の居場所別の人数をご記入ください。

※ 「14 合計」と、問5「新規の入所・入居者数（合計）」（★欄）が一致することをご確認ください。

※ 一旦入院し、退院後に貴施設等に入所・入居した場合は入院前の居場所をご記入ください。

		市（区町村）外
1 自宅（※兄弟・子ども・親戚等の家含む）	[] 人	[] 人
2 住宅型有料老人ホーム（特定施設除く）	[] 人	[] 人
3 軽費老人ホーム（特定施設除く）	[] 人	[] 人
4 サービス付き高齢者向け住宅（特定施設除く）	[] 人	[] 人
5 グループホーム	[] 人	[] 人
6 特定施設	[] 人	[] 人
7 地域密着型特定施設	[] 人	[] 人
8 介護老人保健施設	[] 人	[] 人
9 療養型・介護医療院	[] 人	[] 人
10 特別養護老人ホーム	[] 人	[] 人
11 地域密着型特別養護老人ホーム	[] 人	[] 人
12 その他	[] 人	[] 人
13 行先を把握していない	[] 人	[] 人
14 合計	[] 人★	

合計人数が一致することを、「」ご確認ください

ここからは、過去1年間の退去者についてお伺いします。

問7 過去1年間（令和4年1月1日～令和4年12月31日）に、貴施設等を退去した人の人数をご記入ください。

※ なお、一時的な入院等で貴施設等に戻った方、現在一時的に入院中の方（貴施設等との契約が継続している方）は含めないでください。

退去者数（合計）（※死亡・搬送先での死亡を含む） []人☆

問8 問7でご記入いただいた過去1年間の退去者について、要介護度別の人数をご記入ください。

※ 死亡（搬送先での死亡を含む）した人については、「死亡」欄にその人数をご記入ください。

※ 合計人数と、問7の「退去者数（合計）」（☆欄）が一致することをご確認ください。

退去者					
自立	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3
[]人	[]人	[]人	[]人	[]人	[]人
退去者			死亡	合計	
要介護4	要介護5	新規申請中			
[]人	[]人	[]人	[]人	[]人☆	

問9 問7でご記入いただいた過去1年間の退居者について、退去先別の人数をご記入ください。

※ 「16 合計」と、問7の「退去者数（合計）」（☆欄）が一致することをご確認ください。

※ 一時的に入院して貴施設等以外の居場所に移った場合は、退院後の居場所をご記入ください。

	市（区町村）内	市（区町村）外
1 自宅（※兄弟・子ども・親戚等の家含む）	[]人	[]人
2 住宅型有料老人ホーム（特定施設除く）	[]人	[]人
3 軽費老人ホーム（特定施設除く）	[]人	[]人
4 サービス付き高齢者向け住宅（特定施設除く）	[]人	[]人
5 グループホーム	[]人	[]人
6 特定施設	[]人	[]人
7 地域密着型特定施設	[]人	[]人
8 介護老人保健施設	[]人	[]人
9 療養型・介護医療院	[]人	[]人
10 「9」を除く病院・診療所（一時的な入院を除く）	[]人	[]人
11 特別養護老人ホーム	[]人	[]人
12 地域密着型特別養護老人ホーム	[]人	[]人
13 その他	[]人	[]人
14 行先を把握していない	[]人	
15 死亡（※搬送先での死亡を含む）	[]人	
16 合計	[]人☆	

合計人数が一致することを、「」ご確認ください

問 10 貴施設等の入居・入所者が、退去する理由は何ですか。退去理由として多いものを上位3つまで選んで、該当する口に✓を付けてください。

	退居理由「上位3つ」に✓		
	第1位	第2位	第3位
1 必要な生活支援が発生・増大したから	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 必要な身体介護が発生・増大したから	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 認知症の症状が悪化したから	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 医療的ケア・医療処置の必要性が高まったから	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5 「1」～「4」以外の状態像が悪化したから	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6 入所・入居者の状態等が改善したから	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7 入所・入居者が、必要な居宅サービスの利用を望まなかったから	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8 費用負担が重くなったから	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9 その他	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

○本調査の記入者についてご記入ください。

事業所名	
事業所番号	
回答の記入者	
連絡先	

**調査は以上です。ご協力ありがとうございました。
ご回答いただいた調査票は、令和5年6月22日（木）までに、
同封の返信用封筒に入れ、そのまま投函してください。**

ケアマネジャーに関する調査

アンケート調査へのご協力をお願い

介護保険サービス提供事業者の皆様には、日頃より泉大津市の高齢者福祉及び介護保険行政にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

泉大津市では、計画期間が令和6年度から令和8年度までの「泉大津市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画」を今年度中に策定します。

つきましては、ケアマネジャーの皆様の現状について把握し、今後の泉大津市の介護保険事業及び高齢者福祉施策のための基礎資料といたしたく、アンケート調査を実施することとなりました。

お忙しいところ誠に恐縮でございますが、趣旨をご理解いただき、アンケート調査にご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和5年5月

泉大津市長 南出 賢一

《ご回答にあたって》

- この調査は、事業所に所属するケアマネジャーの方の人数分を配布しています。ケアマネジャーお一人ずつお答えください。
- 令和5年5月1日現在の状況をお答えください。
- ご回答いただいた調査票は令和5年6月22日（木）までに、同封の返信用封筒に入れ、そのまま投函してください。
- この調査についてわからないことがありましたら、下記へご連絡ください。

【お問い合わせ先】

泉大津市 保険福祉部 高齢介護課

TEL：(0725) 33-1131 内線 2179

はじめに

- | | |
|---------|-----|
| ① 事業所名 | () |
| ② 事業所番号 | () |

介護支援専門員について

問1 あなたの年齢について、あてはまるものに○印をつけてください。

- | | | | |
|----------|--------|----------|--------|
| 1. 20歳未満 | 2. 20代 | 3. 30代 | 4. 40代 |
| 5. 50代 | 6. 60代 | 7. 70代以上 | |

問2 あなたの介護支援専門員としての実務経験年数を記入してください。

介護支援専門員としての実務経験年数 ()年 ()か月

問3 あなたの勤務形態について、あてはまるものに○印をつけてください。

- | | |
|----------|----------|
| 1. 常勤専任 | 2. 常勤兼任 |
| 3. 非常勤専任 | 4. 非常勤兼任 |

※常勤はフルタイムで1日8時間・週40時間以内の勤務形態。非常勤はパートタイムで常勤と比較して労働時間が短い勤務形態。

問4 介護支援専門員以外の業務と兼任していますか。(いくつでも)

- | | | | |
|------------|--------|-----------|----------|
| 1. 兼任していない | 2. 介護職 | 3. 看護職 | 4. リハビリ職 |
| 5. 相談員 | 6. 管理者 | 7. その他() | |

問5 令和5年5月1日現在、担当している利用者数についておうかがいします。

- | | | | |
|---|-----------|-----------|--|
| ① 何人を担当されていますか。 | ()件 | | |
| ② 上記の担当者数について、要支援・要介護度別の人数の内訳を記入してください。 | | | |
| 要支援1 ()人 | 要支援2 ()人 | | |
| 要介護1 ()人 | 要介護2 ()人 | 要介護3 ()人 | |
| 要介護4 ()人 | 要介護5 ()人 | 新規申請中()人 | |

必要と感じるサービスについて

問6 泉大津市に不足していると感じる介護保険サービスはありますか。(いくつでも)

介護予防・日常生活支援総合事業		
1. 介護予防訪問介護	2. 介護予防通所介護	3. 訪問型サービス A
4. 訪問型サービス C	5. 通所型サービス C	
介護サービス・介護予防サービス		
6. 訪問介護	7. 訪問看護	8. 訪問リハビリテーション
9. 訪問入浴介護	10. 居宅療養管理指導	11. 通所介護
12. 通所リハビリテーション	13. 短期入所生活介護	14. 短期入所療養介護
15. 特定福祉用具販売	16. 福祉用具貸与	17. 介護予防訪問看護
18. 介護予防訪問リハビリテーション	19. 介護予防訪問入浴介護	20. 介護予防居宅療養管理指導
21. 介護予防通所リハビリテーション	22. 介護予防短期入所生活介護	23. 介護予防短期入所療養介護
24. 介護予防特定福祉用具販売	25. 介護予防福祉用具貸与	26. 居宅介護支援
27. 特定施設入居者生活介護	28. 介護予防特定施設入居者生活介護	
29. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護	30. 夜間対応型訪問介護	
31. 認知症対応型通所介護	32. 介護予防認知症対応型通所介護	
33. 小規模多機能型居宅介護	34. 介護予防小規模多機能型居宅介護	
35. 認知症対応型共同生活介護	36. 介護予防認知症対応型共同生活介護	
37. 地域密着型特定施設入居者生活介護	38. 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	
39. 看護小規模多機能型居宅介護	40. 地域密着型通所介護	
41. 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	42. 介護老人保健施設(老人保健施設)	
43. 自費サービス(保険外サービス)		

問7 介護保険サービス以外にあればよいと思う支援はありますか。(いくつでも)

1. 配食	2. 調理	3. 掃除・洗濯	4. 買い物(宅配は含まない)
5. 外出同行(通院・買い物など)	6. ゴミ出し	7. 見守り、声かけ	
8. サロンなどの定期的な通いの場	9. 移送サービス(介護・福祉タクシー等)		
10. その他()		11. 特にない	

利用者の施設入居の希望について

※問8は居宅(在宅)ケアマネジャーの方のみお答えください

問8 現在担当している利用者で施設等への入居希望者はいますか。施設別に入居を希望している人数をご記入ください。利用者に複数の希望がある場合は、第一希望のみ加算してください。

① サービス付き高齢者向け住宅	())人程度いる
② 有料老人ホーム	()	人程度いる
③ 介護付き特定施設	()	人程度いる
④ グループホーム	()	人程度いる
⑤ 特別養護老人ホーム	()	人程度いる
⑥ 老人保健施設	()	人程度いる
⑦ 軽費老人ホーム	()	人程度いる

虐待について

問9 あなたが担当された利用者のうち、直近1年間で虐待を受けていると思われた利用者はどれくらいいますか。(1つだけ)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. 1～2例 ⇒問 10 へ | 2. 3～4例 ⇒問 10 へ |
| 3. 5例以上 ⇒問 10 へ | 4. ない |

問9で「1」、「2」、「3」と回答した方は問 10 をお答えください。

問 10 遭遇した虐待事例はどのようなものですか。またどのように対応しましたか。遭遇した事例の()に、対応方法について該当する番号を下記から選び記入してください。

また、「10. その他」を選んだ場合は、具体的な対応方法を記入してください。

	対応方法		「10. その他」を選んだ場合
[記入例] 心理的虐待	(1)	⇒	(具体的に:)
① 心理的虐待	()	⇒	(具体的に:)
② 身体的虐待	()	⇒	(具体的に:)
③ 金銭的虐待	()	⇒	(具体的に:)
④ ネグレクト	()	⇒	(具体的に:)
⑤ その他()	()	⇒	(具体的に:)

対応方法

- | | |
|-------------------------|--------------------|
| 1. 市役所に相談 | 2. 地域包括支援センターに相談 |
| 3. 事業所内で相談 | 4. 主治医に相談 |
| 5. サービス事業者とサービス担当者会議を開催 | 6. 家族などと相談 |
| 7. 警察に相談 | 8. 別事業所の介護支援専門員に相談 |
| 9. 居宅介護支援専門員の団体や協議会に相談 | 10. その他 |
| 11. 相談しなかった | |

医療との連携について

問 11 利用者の病状や健康状態について主治医と連絡をとっていますか。(1つだけ)

- | | | |
|----------|------------|---------------|
| 1. とっている | 2. 時々とっている | 3. ほとんどとっていない |
|----------|------------|---------------|

問 12 あなたが医療機関(主治医)との連携が必要だと思うケースに遭遇した場合、実際に医療機関(主治医)と連携していますか。(1つだけ)

- | | |
|------------------|----------------|
| 1. 連携がとれている | 2. 概ね連携がとれている |
| 3. ほとんど連携がとれていない | 4. 全く連携がとれていない |

問 13 あなたが医療と介護の連携で課題や不足していると感じることは何ですか。(いくつでも)

- | | |
|--|------------------------------|
| 1. 診療時間や診療内容の情報、マップ | 2. 医療機関の訪問診療に関する情報 |
| 3. 主治医など専門職の面談可能な時間帯 | 4. 認知症専門医の情報 |
| 5. 患者情報の共有 | 6. 在宅医療、介護に関する相談支援 |
| 7. 医療、介護従事者合同の研修会 | 8. 地域住民の理解の促進 |
| 9. 情報共有システムが確立されていない | 10. 関係者間の「顔の見える関係」づくりができていない |
| 11. 医療機関の協力得られない | 12. 連携のための事務負担が大きい |
| 13. 医療・介護の制度や知識、目的等、多職種間の専門性の相互理解が進んでいない | |
| 14. 多職種をコーディネートできる人材がいらない | 15. その他() |

地域における支援について

問 14 業務を行う上で困難事例はありましたか。(1つだけ)

- | | |
|---------------|-------|
| 1. ある ⇒問 15 へ | 2. ない |
|---------------|-------|

問 14 で「1」と回答した方は問 15 をお答えください。

問 15 地域包括支援センターに相談しましたか。(1つだけ)

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

問 16 地域包括支援センターにどのような役割を期待していますか。(いくつでも)

- | | |
|------------------------|---------------------------|
| 1. 業務全体に対するスーパーバイズ | 2. 困難事例に対する助言・支援 |
| 3. サービス担当者会議の開催支援 | 4. 専門性向上のための研修の開催や研修情報の提供 |
| 5. 介護支援専門員同士のネットワークづくり | 6. 関係機関とのネットワークづくり |
| 7. その他() | |

問 17 介護支援専門員の立場からみて、泉大津市の高齢者(特に独居高齢者)に対する支援について、不足していると感じているものは何ですか。(いくつでも)

- | | |
|-------------------------------|----------------------|
| 1. 緊急時の連絡体制 | 2. 地域のつながり・支えあい・見守り |
| 3. 介護予防への取組 | 4. 高齢者支援の担い手の育成・支援 |
| 5. 高齢者も参加できる地域活動・ボランティア活動 | 6. 地域包括支援センターの相談支援体制 |
| 7. 福祉・健康などに関する情報提供体制 | |
| 8. 権利擁護(虐待・成年後見制度・消費被害)への支援体制 | |
| 9. その他() | |

認知症について

問 18 あなたが市内で担当している利用者の方の内、認知症の方(疑い含む)は何人いますか。

()人 うち、若年性認知症()人

問 19 認知症の方への支援において困っていること(困ったこと)はありますか。(いくつでも)

- | | |
|-----------------------------|--------------------|
| 1. サービス利用などの契約手続きができない | 2. サービスの受け入れ先が限られる |
| 3. 本人の介護サービスや医療への拒否 | 4. 本人の暴言や暴力がある |
| 5. 金銭管理 | 6. 徘徊や緊急時の対応 |
| 7. 家族・本人の認知症に対する理解・認識が低い | 8. 地域の理解がない、理解が低い |
| 9. 限度額や要介護度等の制限でサービスが受けられない | 10. 服薬管理 |
| 11. その他() | |

問 19-1 特に若年性認知症の方への支援において困っていること(困ったこと)はありますか。

問 20 認知症の方への支援で必要なことはどのようなことだと考えますか。(いくつでも)

- | | |
|-----------------------------------|-------------------------------|
| 1. 認知症の家族を介護している人への家族教室(つどい)などの開催 | |
| 2. 就労支援 | 3. 医療的な支援 |
| 4. 認知症についての正しい知識を普及するための啓発活動 | |
| 5. 介護保険などの公的サービスの充実 | |
| 6. 家族・介護者の負担軽減のための地域による支援活動 | |
| 7. 成年後見制度の利用促進 | 8. 認知症全般について相談できる専門の窓口 |
| 9. 地域住民の理解 | 10. 徘徊高齢者の早期発見のためのネットワーク |
| 11. 定期的な訪問活動 | 12. 認知症の人が社会参加できる居場所(認知症カフェ等) |
| 13. 認知症を早期に発見し、早期対応するための取組 | |
| 14. その他() | |

自立支援・重度化防止について

問 21 介護予防・重度化防止のケアプランの工夫をしていますか。(1つだけ)

1. 工夫している ⇒問 22、問 23 へ
2. 今はしていないが、これから取り組む予定 ⇒問 22、問 23 へ
3. 工夫はしておらず、今後も取り組む予定はない ⇒問 24 へ

問 21 で「1」、「2」と回答した方は問 22、問 23 をお答えください。
「3」と回答した方は問 24 にお進みください。

問 22 工夫している、または工夫予定の内容は何ですか。

問 23 取組に対する課題は次のうちどれですか。(いくつでも)

1. 利用者の理解が得られない
2. 家族の理解が得られない
3. 多職種の連携が困難
4. 適正なサービスを提供できる事業者がない
5. 支給限度額との関係で困難
6. 該当する利用者がいない
7. 具体的な取組方法がわからない
8. その他()

問 24 「工夫はしておらず、今後も取り組み予定はない」理由を記入してください。

新型コロナウイルス感染症について

問 25 コロナ禍において何か変化したことや対策されたこと、ご苦労されたこと等、また、利用者から聞いている困りごと等がありましたら、ご自由にお書きください。

ヤングケアラーについて

問 26 「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありますか。(1つだけ)

1. 聞いたことがあります、内容も知っている
2. 聞いたことはあるが、よく知らない
3. 聞いたことはない

問 27 あなたが担当された利用者の家庭に「ヤングケアラー」と思われる子どもはいますか。(1つだけ)

1. いる
2. いない
3. わからない

※ここでの「子ども」は児童福祉法で定義される18歳未満の児童を指します。

問 28 「ヤングケアラー」と思われる子どもがいた場合は、どのような対応をしますか。(いくつでも)

1. 関係機関に相談する ⇒問 29 へ
2. 事業所内で相談する
3. 本人に様子を聞く
4. 何もしない
5. わからない
6. その他()

問 28で「1. 関係機関に相談する」と回答した方にお聞きします。

問 29 どのような機関に相談しようと思いますか。(いくつでも)

1. 学校や教育委員会
2. 民生委員・児童委員
3. 児童相談所などの児童福祉に関する行政の相談機関
4. 保健所などの健康・衛生に関する行政の相談機関
5. 福祉事務所などの社会福祉に関する行政の相談機関
6. 病院や他の介護事業所などの医療・介護関係機関
7. フリースクール・子ども食堂などの民間団体
8. 警察
9. わからない
10. その他()

**調査は以上です。ご協力ありがとうございました。
ご回答いただいた調査票は、令和5年6月19日(月)までに、
同封の返信用封筒に入れ、そのまま投函してください。**